2020年度町田市教育委員会

第１回臨時会会議録

１、開催日　　2020年８月18日

２、開催場所　　町田市庁舎十階　第二、三、四、五会議室

３、出席者

教育長	坂本修一	
委員	後藤良秀	
委員	森山賢一	
委員	八並清子	
委員	井上由奈	

４、署名者　　教育長

委　員

５、出席事務局職員

学校教育部長	北澤英明
生涯学習部長	中村哲也
教育総務課長	田中隆志
教育総務課担当課長	是安智彦
指導室長	小池木綿子
（兼）指導課長	
指導課統括指導主事	宇野賢悟
教育センター所長	林　啓
教育センター統括指導主事	辻　和夫
中学校教科用図書調査協議会会長	橋本顕嗣
書記	中里典子
書記	大河内和歌子
書記	瓜田　円
書記	本吉裕子
書記	厚地正和

速　記　士　　帯　刀　道　代

（株式会社ゲンブリッジオフィス）

６、提出議案及び結果

議案第19号　2021年度使用教科用図書（中学校）の採択について　　原　案　可　決

議案第20号　2021年度使用教科用図書（小学校）の採択について　　原　案　可　決

議案第21号　2021年度使用教科用図書（特別支援学級）の採択について　原　案　可　決

７、傍聴者数　42名

８、議事の大要

午前 10 時 00 分開会

○教育長　傍聴者の皆様に申し上げます。

開会に先立ちまして、事務局からご案内がありましたように、傍聴者の皆様には、円滑な会議ができますように、ぜひともご協力をお願いいたします。また、町田市教育委員会傍聴人規則第５条に基づいて、会議中の撮影・録音は禁止となっておりますので、これにつきましてもご理解いただきたいと思います。

それでは、ただいまから町田市教育委員会第１回臨時会を開会いたします。

本日の署名委員は井上委員です。

日程第１、議案審議事項に入ります。

議案第 19 号「2021 年度使用教科用図書（中学校）の採択について」を審議いたします。本件については、学校教育部長からご説明を申し上げます。

○学校教育部長　議案第 19 号「2021 年度使用教科用図書（中学校）の採択について」、ご説明いたします。

本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条及び第 14 条並びに同法施行令第 14 条及び第 15 条の規定により、2021 年度使用の中学校の教科用図書を採択するものでございます。

町田市立小・中学校教科用図書採択要綱に基づき、教科用図書調査協議会を設置し、採択に必要な事項を調査・協議いたしました。2020 年度町田市教育委員会第５回定例会にお

ける本協議会からの報告を踏まえ、教科用図書について採択するものでございます。

１枚おめくりください。2021 年度町田市立中学校使用教科用図書採択候補一覧でございます。国語は４社、書写は４社、社会（地理的分野）は４社、社会（歴史的分野）は７社、社会（公民的分野）は６社、地図は２社、数学は７社、おめくりいただきまして、理科は５社、音楽（一般）は２社、音楽（器楽合奏）は２社、美術は３社、保健体育は４社、技術・家庭（技術分野）は３社、技術・家庭（家庭分野）は３社、英語は６社、そして道徳は７社候補がありますので、それぞれ採択していただきます。

説明は以上となります。

○教育長　以上で説明は終わりました。

これより質疑に入ります。ただいまの説明に関しまして、何かご質問などございましたらお願いいたします。――よろしいですか。

それでは、質疑を終了いたしまして、採択に入りたいと思います。

まず、採択本の決定方法については、いかがいたしましょうか。

委員の皆様から特にご意見がなければ、私からご提案申し上げたいと思います。

採択の方法につきましては、基本的に昨年度、2019 年度の小学校の教科書採択、そして 2018 年度及び 2017 年度の「特別の教科　道徳」の教科書採択の際にとった方法と同様に、無記名投票による方法をとりたいと思います。

既に先般、８月７日の教育委員会第５回定例会におきまして、教科用図書調査協議会からの報告を受けておりますので、その報告内容も踏まえて、委員の皆様方がそれぞれのお考え、ご意見を述べられた後、投票するという形にしたいと思います。

なお、これも前回と同様ですが、教育長と教育委員は合わせて５名でございますので、投票の結果、過半数、つまり、３票以上を獲得すれば、その教科書が採択されることになります。また、いずれの教科書も投票数が過半数に至らなかった場合、例えば２対２対１のような場合は、２票を獲得した教科書会社２社で決選投票を行うことになります。なお、２票を獲得した教科書会社が１社だけで、あとは１票ずつの獲得が３社のような場合、つまり、２対１対１対１といったような場合には、まず２票を獲得した１社を第１候補としておいて、残りの１票獲得の３社で再投票して第２候補を決め、その後に第１候補と第２候補で決選投票をするというように、いずれにいたしましても１社が過半数の３票を獲得するまで投票を繰り返すという方法でございます。

私からの提案は以上でございますが、この提案につきまして、ご質問その他何かご意見

がございましたらお願いいたします。――よろしいでしょうか。

それではただいま提案いたしました採択方法についてご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長　ご異議なしと認め、採択方法については無記名による投票方式に決定いたしました。

それでは、審議に入りたいと思います。リストの記載のある教科の順番に従いまして、最初に国語の教科から審議をいたします。

投票に先立ちまして、各委員の皆様からご意見をお願いしたいと思います。

それでは、まず私から意見を述べさせていただきます。

今回の中学校の教科書採択に当たっては、来年度から本格実施される新たな学習指導要領の中に示されたポイントである「主体的・対話的で深い学び」、具体的に申し上げれば、これからの時代を担う子どもたちの「生きる力」を育むために、何のために学ぶのかという学習の意義を共有しながら、授業改善を通し創意工夫した特色ある教育活動を展開して、全ての教科を通じて「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、そして「学びに向かう力・人間性」の教育の充実に努めることというふうに示されております。日常生活の中で、豊富な語彙を表現に生かす、社会・経済について、データ・資料に基づいて考える、数学を活用して、科学的根拠に基づいて考える、そういうこれからの時代に求められる資質・能力を子どもたちに育んでいくことが求められています。

私はこのことを踏まえた上で、町田市の子どもたちにとって最も適した教科書、また、町田市の学校に勤務する先生方にとっても使いやすい教科書、そういう意味では、「教科書を教えるのではなくて、教科書で教える」とよく言われますが、教科書が授業の台本のようになっていないもの、また、教科書に載っている発問等が、子どもの考えを１つの答えに誘導するようなものではないことなど、全教科についてそのような観点で拝見させていただきました。

あと一つ、現在、町田市教育委員会では、昨年度に改定した学力向上推進プランの中で、先ほど申し上げました新学習指導要領の趣旨を踏まえ、各学校で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業をデザインする上での参考としていただくように、「８つの取組」というものをお示ししています。「８つの取組」というのは、詳しい説明はこの場では省きますが、「見通しをもたせる導入」、「発問の工夫」、「価値ある対話の共有」、「振り返りの設定」、「構造的な板書とノート指導」、「ＩＣＴ機器の活用」、「思考ツールの活用」、「認

め合う・学び合う集団の形成」、この８つでございます。今回の教科書採択では、この取り組みの推進にも寄与する、そういう観点も含めて拝見をさせていただきました。

最初に、全ての教科についての今回の私の観点をお話しさせていただきました。

さて、国語の教科書についてでございます。国語について学習指導要領の中では、言葉による見方・考え方を働かせ、社会生活の中で、言語活動を通して、適切な表現力、伝え合う力を高め、言語感覚を豊かに磨いて、能力の向上を図る態度を養うというような目標が示されております。

私は、この国語という教科は、他の教科を初め、子どもたちの実生活にも大きく影響を与える教科だと思いますので、基本的な「話す・聞く」、「書く」、「読む」という各領域のバランスを初め、子どもたちの自主的・継続的な学習意欲や興味・関心を引き出す教材等の工夫、あるいは人とのかかわりの中で、伝え合う力の育成につながるような構成、そういった観点から見させていただきました。

そういう観点で見たときに、今回は４社から教科書が作成されていますが、私は、その中で、三省堂、それと光村図書出版が、生徒にとって、また先生にとっても使いやすいのではというふうに感じました。この２社とも、全体の構成や、各単元・教材ごとの学習のめあてというのでしょうか、どのような力をつけたいかということが、三省堂では「領域別教材一覧」や「思考の方法」など、それから光村図書出版では「『学習の窓』一覧」などによって、いずれもコラムの形で出ていますが、内容を順序立てて理解することができる工夫があるというふうに感じました。

加えて、この２社とも読書活動を促すコラムがよくできているのですが、特に光村図書出版が取り上げている教材・作品には、これは調査協議会からの報告にもございますが、宮崎駿や池上彰、羽生善治など、多くの現代作家や評論家などによる新しい文章、書きおろしの作品などが取り上げられていて、これは子どもたちの興味を引き、学習意欲を引き出すのにも有効だと思いました。

また、現在、町田市では、ＩＣＴ機器を活用した教育の推進に取り組んでおりまして、今年度中には全ての小・中学校にプロジェクターや大型提示装置、児童・生徒一人一人にタブレット端末等の機器を整備する予定でございますが、光村図書出版の教科書にはデジタルコンテンツが大変多く掲載されていて、そのほとんどがオリジナルの動画でございまして、私が見てもとてもよくできていて、ＩＣＴ機器を使った授業でも活用度が高いものと感じました。また、スマートフォンでも簡単に見ることができますので、家庭学習にも

有効だと思いました。

私からは以上でございます。

それでは、そのほかのご意見をいただきたいと思います。

○後藤委員　初めに、私は、このたびの中学校教科用図書の採択審査を行うに当たって、昨年度の小学校教科用図書採択のときにも示したとおり、新学習指導要領の趣旨にのっとり、町田市の子どもたちの学力向上に資する教科書を選定しようというふうに考えています。具体的には町田らしい学びの視点として、町田市教育委員会が示した学力向上を図る授業づくりの８つの視点のうち、見通し、対話、振り返り、板書とノート指導、ＩＣＴ機器、思考ツール、これらがいかに効果的に表現され、学び方や資質・能力の育成を考えた教科書であるかということを重視しました。

また、今般の課題である新型コロナウイルス感染症にかかわる対応、ＳＤＧｓ等が教科特性に応じてどのように取り扱われているかにも注目しました。当然、紙面構成、教科特性による表現の仕方、カリキュラムマネジメント、使用文字や写真、人権上の配慮なども調査し、調査協議会の報告書、学校の教員の意見や市民の皆様の意見も参考にいたしました。以上の方針でこの採択に臨んでおります。

では、国語科ですが、町田市の学力調査結果に直接的に影響していると考えています。近年の結果は全国平均を若干上回り、東京都の平均程度であります。今後のさらなる学力向上に向けては、しっかりと目的意識を持った学び方が身につけられる、そして資質・能力の育成ができる、国語への興味・関心を導く教材がバランスよく配置されている教科書が必要であると考えています。

これらの点で見ると、光村図書出版と東京書籍がよりよいと判断しました。両社ともに、教材の違いはあるものの、伝統的なものや現代的なものなど、生徒の興味・関心を考え、バランスよく配置している点、学び方として、見通し、ノートなどへの考えの表出、対話、振り返り、思考ツールなどを明示し、子どもが主体的・対話的に深い学びができるように構成してあります。

以上です。

○八並委員　私からも、全体としてどのような観点に基づいているかをお話しさせていただきたいと思います。

教育長、後藤委員もおっしゃられましたが、新学習指導要領に基づいて編集されましたこの教科書であります。その中でも、先ほど来上がっていますように、教育プランで掲げ

ました「授業をデザインする８つの取組」に沿った構成・展開に合うものという観点を持ちました。

その中の１つとして、例えば導入、発問の工夫などがあります。教科書に載っている発問から、より多くの考えを生徒から引き出せるようなもの、また、対話の共有といったものにしっかりと取り組めるようなもの、また、ＩＣＴ機器の活用ということで、デジタルコンテンツの充実、また、後藤委員もおっしゃっておりましたが、コロナ禍であって、自宅学習のやり方が今までとは変わってきていると思っております。自宅学習にも生かせるようなコンテンツがあるかどうか、そういうことも観点に考えてみました。

では、国語科ですが、私は国語の教材として、歴史、伝統、人権、環境など触れてほしい教材に大変目が行きました。中でも、日本語の美しさに触れる教材ということでは、光村図書出版のものが、オーソドックスではありましたが、日本語の美しさに触れているものが多かったと思います。中でも巻末にあります「言葉を味わう」ということで、１年次には「時を表す言葉」、２年次には「色の名前」、３年次には「季節の言葉」と美しい日本語に触れる機会があります。また、読書活動ということも大変充実しているところでありまして、随所に読書案内があるのと同時に、「広がる読書」というコラムもございます。同様に、三省堂には「私の本棚」ということで、こちらも読書の充実が見られました。このような形で見ると、私は光村図書出版か三省堂がよろしいのではないかと思いました。

以上です。

○井上委員　ほかの委員の皆様からもお話がありましたように、まず全体的に、私も新学習指導要領をもとにした町田市学力向上推進プランにのっとり、これからを生きる生徒に必要な資質・能力を育むことができる教科書を採択したいと考えています。その根幹にある「主体的・対話的で深い学び」とは、ただ受動的に知識を伝達される授業では得ることができません。生徒自身が興味を持って積極的に取り組み、その学びが自分や社会につながっているのだと認識し、実生活に生かしていくこと、また、１人で考えているだけでは気づき得ないであろう物事の多面性や多様な考え方に触れることで、視野を広げ、みずから課題を見出し、その解決に向けて探究することです。そのような各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせることができるかという点と、中学生の子どもを持つ保護者としての視点も大切に、本日の採択に臨みたいと思います。

さて、国語ですが、近年、表現力、記述力の不足、読解力の低下が継続的に問題視されています。スマートフォンでの短文のやりとりの増加などにより、自分の考えの根拠を示

し、相手に伝わるように書く必要性が激減しているようです。また、読解力を養うためには、読書はもちろんのこと、まず、思考方法や読解のコツをつかみ、内容を順序立てて理解することが大切であると考えます。

以上のことから、私は、三省堂、光村図書出版の、生徒が学びに前向きになれるような具体的な手立ての提案がなされている部分がとてもわかりやすいと感じました。また、読書も単なる案内にとどまらず、関連図書を随所に紹介している光村図書出版の構成は、１つの単元を学習して終わりになるのではなく、関連作者や似たような題材の作品にみずからアクセスすることによって、さらに世界を広げていくきっかけになるのではないかと思いました。

私からは以上です。

○森山委員　それでは、私のほうから、まず教科用図書の選定に当たりまして、全体的なお話をさせていただいて、その後、種目、国語について述べさせていただきたいと思います。

まず、先ほど以来、教育長並びに委員の方々からお話がありましたとおり、私も学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」をもとにして、その上で町田市の中学校教科用図書調査協議会のご意見、並びに市民の皆さんのご意見、並びに学力向上の町田市の「８つの取組」も踏まえまして、設定根拠を明確にしながら進めてまいりました。

１つは、基礎的・基本的な知識・技能が明確に示されるか、そして思考力・判断力・表現力の育成が教科書の中でどのように工夫されているか、それから学習意欲の問題、それから言語活動の充実をどのような形で教科書で示しているのか、それから、中学生ですので、生徒に学び続ける力というのを、特に問題解決的な学習とか、あるいは探究能力をどのような形で引き出すような教科書になっているのだろうか。

加えて、各教科の分析の観点、いわゆる他教科等の関連からも検討してまいりました。根底にあるのは、基本的人権の尊重、あるいは今回、特に町田市もしっかりと明確に打ち出しているＩＣＴの活用の工夫についても、教科書選定の大きな基準とさせていただきました。

このことを踏まえまして、種目、国語におきましては、１つは光村図書出版の教科書を上げたいと思います。ある程度まとまった読書案内に加えまして、随所に読書活動を促すということで、読むことについて、「広がる読書」の欄によって関連図書がしっかりと紹介をされています。また、随所にＱＲコードがあって、生徒の興味・関心を引き出す工夫が

見られます。加えて、単元ごとの学習内容・目標がしっかりとしていまして、この後、生徒がこの単元を進むに当たっての見通しを持ちやすいという工夫がなされていると思います。また「『学習の窓』一覧」によって、内容を順序立てて理解するという工夫もあります。

それから２つ目の教科書は、教育出版の「伝え合う言葉　中学国語」です。この教科書は発展的な内容が非常に充実した構成になっています。特に非対面コミュニケーションの分野についても発展的に扱っているという非常に新しい教科書だなと思います。特に図やグラフを参照しながら、人の意見を聞いて自分の意見をまとめる。これは「学びのチャレンジ」という内容が示してありましたが、現在非常に大きな課題になっております学び方・考え方の習得という点においても工夫がなされているかと思います。

以上、私から国語の意見を述べさせていただきました。

○教育長　委員の皆様からそれぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

事務局から投票用紙が配られますので、これが最も適していると思われるものを１つ選んで、投票用紙に丸をつけて、投票していただきたいと思います。記入が終わった投票用紙は、事務局が回収して集計をいたします。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　それでは、集計が終わりましたので、発表いたします。

教育出版１、光村図書出版４、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、光村図書出版が過半数の３票以上を獲得いたしましたので、2021 年度使用教科用図書、中学校「国語」は、光村図書出版に決定いたします。

それでは次に、書写の教科について審議いたします。

投票に先立ちまして、各委員の皆様からご意見をお願いいたします。

それでは、まず私から意見を述べさせていただきます。

書写につきましては、日常生活の中でも、硬筆や毛筆、楷書や行書など、さまざまな書体・字体がある中で、子どもたちがそういう多様な文字に関心を持ち、ふだんの生活や学習の中で、目的や必要に応じて書写の能力を活用できるようにということが学習指導要領の目標に掲げられております。

これはいつもお話しするのですが、町田市には毎年東京都教育委員会から 100 名くらい

の新規採用教員が配属されておりまして、若手の教員がふえているわけです。今の若手の先生方はキーボードでの入力に慣れていて、また、子どもたちも、昔ほど習字の習い事とかに行くこともなかなか少ないのではないかと思いますので、子どもたちにもわかりやすく、また先生方にも指導しやすいものをという観点で見させていただきました。

今回４社あるわけですが、いずれもさまざまに工夫されていて、内容的に大きな差異がないという印象を持っております。そのような中でも、東京書籍と教育出版が、見本や写真が見やすくて、例えば入学願書や小包伝票の書き方などの実用的な事例も扱っていて、また、いずれもキャラクターを使ってガイドするなど、子どもたちの関心を引き出す工夫が随所にあって、わかりやすく書かれているなというふうに感じました。特に教育出版には、よくできたデジタルコンテンツが掲載されておりまして、ＩＣＴ機器を使った授業でも活用度が高いのではないかと感じました。

以上でございます。

そのほかの委員の方いかがでしょうか。

○後藤委員　書写では、書字の力を高める技能がいかに身につきやすいか。そのために、ＩＣＴ活用などが効果的に取り入れられているか。もう１点は、日常生活との関連を重視して、それが実用的に使える。実用化が図られているかなどの点が重要と考え、判断しました。各社ともあまり大差なく構成されていると思いますが、その中でもわかりやすく、使いやすいという点では、教育出版と光村図書出版が上げられるというふうに判断しました。

以上です。

○八並委員　私も今回の４社を見たところ、どの社も、日常生活の中でどのように使われるかということを、実例を示して編集されておりました。また、毛筆の進め方についてもあまり相違ないような感じがしました。ただ、その中でも、教育出版のデジタルコンテンツが一番充実しているように思えましたのと、毛筆の手本と字の解説が見開きであるようなところも学びやすいのではないかと感じました。

以上です。

○井上委員　書写については、どの出版社も目標やねらい、学習の振り返りがきちんと示されており、字の習得にとどまらず、入学願書やレポートやメールなど、これから先に必要となるような実用的な活用法が掲載されている点に工夫を感じました。中でも教育出版は資料が多く、カラフルで、見本が大きく、非常に見やすかったです。また、学びの具体

的なヒントが多く、さらにポップ作成など、情報活用にも重きを置いている点が、評価すべき点であると考えます。

私からは以上です。

○森山委員　私のほうから種目、書写の教科書について述べさせていただきます。

各委員のお話のとおり、私もそれぞれの教科書は、非常に充実した教科書であると思っております。ただ、その中で、生きて働く、確かな書写をどのように捉えるか、あるいは主体的な文字の使い方、実際にどのような形で文字を使うかというところでのいろいろな発展的な内容について、先ほどの委員のお話もありましたけれども、この２点から考えますと、教育出版の「中学書写」が、ＵＤフォント、比較的やわらかい色を使った図式を活用して、非常にわかりやすい表現になっているということ、そして書写テストでの学習の定着が図られるというところ、あるいはポップ作成など、実践的な言語活動も示されていますので、学び方、考え方を習得できるという工夫が見られるのではないかと思います。

それからもう１つは、東京書籍の「新しい書写」の教科書でございます。これは先ほどの委員のお話にもありましたけれども、振り返りやまとめの書写テストがあって、書き込み式で学習の確認ができます。「学習のヒント」というところで、「書写のかぎ」というのがあって、あるいは伝統・文化等の紹介などもなされています。振り返りをするということでの生徒の興味・関心を引くということについては非常に工夫がなされている教科書だと思います。

以上です。

○教育長　委員の皆様からそれぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　それでは、発表いたします。

教育出版５、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、教育出版が過半数の３票以上を獲得いたしましたので、2021 年度使用教科用図書、中学校「書写」は、教育出版に決定をいたします。

それでは次に、社会（地理的分野）の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、各委員の皆様からのご意見をお願いいたします。

それではまず、私から意見を述べさせていただきます。

地理、歴史、公民的分野を含めた社会科全体の教科の目標というのは、広い視野に立って、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成するとございます。

その社会科の中の地理的分野については、日本や世界の諸地域の諸事情や地域的特色をさまざまな資料の中から多面的・多角的に考察するための技能や、課題解決に臨む主体的な態度、公正な判断力、そういった力が身につけられるかといったことが選ぶ際の観点になると思います。

各社それぞれに特徴や工夫があるわけでございますが、まず前提となる本文や資料、写真や挿絵、図表等の見やすさから言うと、私は東京書籍あるいは帝国書院が読みやすいと感じました。この２社についてはいずれも教科書の見方・考え方や、導入から振り返りまでの流れなどの説明や、設問や問いのコラムが充実しておりまして、思考力・判断力・表現力を促すものとなっていると思います。これは冒頭の国語の教科のところでも申し上げました町田市教育委員会の学力向上推進プランの中の「８つの取組」にも通じるものがあると感じました。

この２社の中でも、特に私は、帝国書院の最初の数ページにわたる「目次」や「学習のしかた」等の構成ですとか、鮮やかな色使いの写真、イラスト等を使ったわかりやすい説明だけで、興味・関心が湧いてきた次第です。また、国際連合で採択された「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」について、日本や世界の多くの取り組みを、環境や防災、共生に関連づけて紹介していることにも好感を持ちました。

以上でございます。

その他いかがでしょうか。

○後藤委員　社会科の地理的分野では、位置や分布、場所の特徴などの地理的な見方・考え方や、問題解決の学習をどのように構成しているかというのを判断基準にしました。この点で見ますと、４社とも工夫した構成が見られていますが、現代の課題であるＳＤＧｓの扱いなども社会科では重要ですので、その点も、その構成はどうされているかということにも着目しました。さらに地理は、後ほど出てくる地図との関係も考えなければいけないのではないかと考慮しました。その結果、東京書籍と帝国書院がよりよいと判断しました。

以上です。

○八並委員　私も帝国書院または東京書籍の教科書が非常に印象に残りました。どちらも資料を豊富に使っており、写真などが非常にきれいなものが使われております。また先ほどもお話がありましたが、ＳＤＧｓの取り扱いということで、それぞれ巻頭に持ってきているところは非常によいと思います。

中でも、どちらかというと、私は東京書籍の章末にある「基礎・基本のまとめ」、あるいは「まとめの活動」などは、子どもたちのスキル・アップに非常につながるのではないかと思いました。ただ、どちらにもいろいろな方のメッセージがその場面場面でありまして、帝国書院では、実社会の人々の具体的な話の紹介ということがしっかりと載っておりますし、東京書籍のほうには、それぞれの場面でのメッセージが紹介されております。そのような形で、生徒たちの学習に非常に興味を持たせる工夫がされているのではないかと思いました。

以上です。

○井上委員　私も東京書籍、帝国書院が使いやすく、構成も工夫されていると感じました。東京書籍は、小学校での既習マークが記してあり、都度、生徒に理解度を確認しながら進めることができ、教員と生徒の認識の乖離を埋めることができる工夫があると感じました。帝国書院は、色鮮やかで迫力があり、より細かく注視したくなる写真使いをしており、１枚だけでパッと理解できる明瞭さがあると感じました。

私からは以上です。

○森山委員　私のほうからは東京書籍と帝国書院の２社の教科書を上げたいと思います。

東京書籍の「新しい社会　地理」では、単元全体を貫く「探究課題を立てる」といういわゆる導入の活動から始まって、１単位時間ごとの学習課題を解決しながら進める「問いの探究」に移る。その後、探究活動を解決する「まとめの活動」の形で、問いを軸にしながら、単元を構造化して、課題解決的な学習を進めるという流れになっております。これは「まとめの活動」の中で思考力・判断力・表現力を高める内容となっているところに大きな特徴があろうかと思います。もう１点は、ユニバーサルデザインは全面的に対応されていると思います。

それからもう１社、帝国書院の「社会科　中学生の地理」につきましては、地球的課題を扱うページを新しく設けています。帝国書院の教科書を見ますと、巻頭ページの「地球のよりよい発展を目指して」というところで、私たちが暮らす日本も含めた世界の国々の中で、持続可能な開発目標と呼ばれる問題に取り組んでいることを、写真を含めて明確に

示しているところがあります。あと、コラムの中でも、「未来に向けて」ということで、環境とか防災、共生についても取り扱っています。地理をこういう形での取り扱いをすること、いわゆる地球的課題を扱うページということの工夫が見られると思います。

以上です。

○教育長　それぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　それでは、発表いたします。

東京書籍１、帝国書院４、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、帝国書院が過半数の３票以上を獲得いたしましたので、2021 年度使用教科用図書、中学校「社会（地理的分野）」は、帝国書院に決定いたします。

続きまして、社会（歴史的分野）の教科について審議をしたいと思います。

投票に先立ちまして、各委員の皆様からご意見を伺わせていただきたいと思います。

ではまず、私の意見から述べさせていただきます。

歴史的分野の目標については、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、さまざまな資料から効果的に調べる技能を身につけ、歴史にかかわる事象や伝統・文化の特色を多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を公正に判断する力を養って、国民としての自覚や国際協調の精神を養うといったことが示されております。

この歴史的分野の教科書については、今回７社から出されているわけですが、いずれも特色があるつくり方で、例えば育鵬社の教科書は、歴史の流れや登場人物の活躍など、読み物としては大変おもしろいと感じましたし、山川出版社の教科書は、率直に申し上げて、これが中学生の教科書かと思うほど文章表現やイラストが難しく感じました。

また、教育出版や帝国書院の教科書には、「近代国家へのあゆみ」の中で、町田市の自由民権資料館の写真や所蔵品が紹介されていたり、日本文教出版の教科書では、旧町田市の豪農、青木氏が建てた養英館という学校が紹介されていたり、学び舎の教科書では、旧府中市で開かれた演説会を計画した人物として、町田市の旧野津田村の石阪昌孝氏が紹介され、写真が掲載されているのを拝見しました。地元の所管部署としてはとても誇らしく思うところでございました。

しかし、先ほど来申し上げているように、教科書を読んで、子どもたちが「ああ、おも

しろかった」とか、「町田市のことが載っていてよかったね」で終わってしまっては困るので、日本史や世界史を多面的・多角的に学ぶ中で、子どもたちには現在の自分の立ち位置というものをみずから考えさせるという工夫が必要だと考えています。

そのような観点で見たときに、私は東京書籍と帝国書院が読みやすく、すぐれていると考えています。この２社ともに平易な文章であったり、漫画を使用したりして、子どもたちに親しみやすくする工夫があって、課題の発見・解決につながるような適切な設問が数多く設けられていて、深い学びにもつながるものというふうに感じました。

特に帝国書院については、調査協議会の報告書にもあるように、写真やイラストのインパクト、そのレイアウトにすぐれていて、子どもたちの興味・関心を引く工夫がなされていて、日本と世界の歴史とのかかわりについての本文も、広く多面的・多角的な視野で書かれていて充実していると感じました。加えて、先ほど申し上げましたが、多摩地域の自由民権運動の資料として、「自由の棲む所、是れ吾が郷なり」という文書が、町田市の自由民権資料館が保管する村野家の文書であると、カラー写真で紹介されているところや、「絹の道」についてのコラムもございまして、地元の所管部署としては大変うれしく誇らしく思うところでございます。

以上でございます。

そのほかいかがでしょうか。

○後藤委員　社会科の歴史的分野では、７社の出版社の教科書を吟味いたしました。出版社によって、編集の特徴が強く出ている教科書もありましたが、町田市の子どもたちにふさわしい町田市らしい学びができる、見通し、対話、振り返り、板書とノート指導、ＩＣＴ機器、思考ツールが、その中にいかに効果的に表現され、学び方や資質・能力の育成を図るようになっているか、問題解決の構成が工夫されているかなどの検討をしました。中には、これらにはあまり適していないというふうに判断する教科書もありました。

検討の結果、東京書籍、教育出版、帝国書院の３社の教科書が、先ほど言った点をバランスよく構成していると考えました。この中でも、教育長もおっしゃいましたが、町田市の教材として挙げているという教育出版の自由民権資料館、あるいは帝国書院の「絹の道」などは、町田市の子どもたちにとって歴史を身近に感じる機会になるような教材ではないかというふうにも考えました。

以上です。

○八並委員　各社とも大変工夫された編集をされていると感じました。特に歴史というこ

となので、年表をどのように扱っているかということも非常に興味深いところです。育鵬社などは「歴史のモノサシ」という言い方をしておりますし、その他、教育出版や東京書籍などでは、それぞれのページの中にいつも年表が見られるようになっているという工夫がされております。また、学び舎による人々の生活に視点を置いたという編集も、個人的に大変興味深く読ませていただきました。

子どもたちが学ぶバランスということを考えますと、東京書籍の「見方・考え方」のコーナー、あるいは「まとめの活動」、「問いの構造図」など、学びに効果的に使われるのではないかという編集をされておりました。また、一般庶民の生活がわかりやすいということを念頭に置きますと、帝国書院のそれぞれの章の初めにありますイラストが充実しており、「ひとめでわかるタイムトラベル」という形で協議会からは報告されておりますが、子どもたちが興味・関心を持ってその時代に思いをはせることができるのではないかと感じました。私も自由民権資料館など、町田市に由来のものが載っている教科書があると、より身近に感じて学習していただけるのではないかと考えました。

以上です。

○井上委員　私も「授業をデザインする８つの取組」の観点を踏まえて検討いたしました。特に東京書籍の「みんなでチャレンジ」は、まさにアクティブラーニングとして対話的な活動を行うのに適していると感じました。「見方・考え方」コーナーは理解しやすく、簡単なクイズのような形式で、楽しく学習することができるのではないかと思います。グラフや資料も「スキル・アップ」や「読み取る」により、ただ資料を目に入れるだけでなく、数字や成り立ちをひもとくことにより、意味をなしたものとしてかみ砕くことができ、記憶にも残りやすいと感じます。

次に、帝国書院ですが、各章の初めのタイムトラベルが印象的です。歴史漫画のような入り方で、タイムマシンの「スザク号」に乗って時代をさかのぼるという設定になっており、各時代を上から見おろした図が非常に魅力的で、大人でも何分も眺めていられるような興味深さがありました。導入に使いやすい点と、歴史が苦手な生徒でも、何となく目で追ってしまう楽しさがあると思います。また、「説明しよう」では、習って終わりではなく、自分の言葉で学習事項を説明できるかどうかという点は、学習の定着のかなめと言えるので理解できたかどうかのチェックになると感じました。

私からは以上です。

○森山委員　私のほうからは２冊の教科書を上げたいと思います。

１冊目は、東京書籍の「新しい社会　歴史」の教科書です。これは小学校の社会科の教科書に掲載されている資料に小マークをつけていて、各章では、それぞれ小学校での学習事項を年表に位置づけながら、歴史の流れが復習できるという仕組みになっています。そういう意味では、小学校で習った言葉として、年表に太文字で記載しているという工夫もあり、歴史を学ぶ上で、中学生がいわゆる小学校の既習事項についての確認ができるという特徴があろうかと思います。

加えて、対話的な授業を行うという意味では、「みんなでチャレンジ」という内容が示されています。これは協同的な活動ができるような小グループ、そういう教科書になっているという工夫がなされているかと思います。

それから、教育出版の「中学社会　歴史」については、小学校、そして中学校の社会科の３分野をそれぞれ結びつけ、深めるための工夫がなされています。これは特に生徒が他教科との関係、いわゆる分野との関係を学ぶ上では、非常にいい工夫になっているのではないかと思います。

加えて、「読み解こう」というところでは、歴史の学習ですから、資料を読み解くという視点を問いの形で示しているところに特徴があろうかと思います。生徒がみずから資料を活用する力をここでしっかりと育んでもらいたいというところとか、あるいは「歴史の技」の中でも、資料活用の方法・手順がわかりやすく示されています。

以上のことから、私は２点の教科書を上げました。

○教育長　それぞれの委員の皆様からご意見を頂戴いたしました。それでは、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　発表いたします。

東京書籍２、教育出版１、帝国書院２、以上です。

○教育長　ただいまの報告のとおり、３票以上獲得した発行者はございませんでした。２票獲得いたしました東京書籍、それから帝国書院、この２社で２回目の投票を行いたいと思います。

その前に、委員の皆様の中で、改めて何かご意見を述べたいというようなお考えのある委員がいらっしゃいましたらお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。――よろしいですか。

それでは、投票用紙の配付をお願いいたします。

（投票）

○教育総務課長　それでは、発表いたします。

東京書籍２、帝国書院３、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、帝国書院が過半数３票以上を獲得いたしましたので、2021 年度使用教科用図書、中学校「社会（歴史的分野）」は、帝国書院に決定いたします。

続きまして、社会（公民的分野）の教科について審議をしたいと思います。

委員の皆様からそれぞれのご意見をお伺いしたいと思います。

それではまず、私から意見を述べさせていただきます。

公民的分野の目標につきましては、現代の社会生活や国際社会などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め、現代の社会的な事象に関する情報を、さまざまな資料から効果的に調べる技能を身につけ、その社会的な事象を多面的・多角的に考察し、現代社会に見られる課題を公正に判断する力を養って、主体的に社会にかかわろうとする態度や、国民主権を担う公民としての自覚、国際協調の大切さを自覚させる、そういったことが学習指導要領の目標には示されております。子どもたちに政治や経済の基礎をきちんと学んでほしいという観点､そのための社会的事象が多面的･多角的に取り扱われていて、それをもとに子どもたちがみずから主体的に判断ができる、そういう資質・能力を養えるようにという観点が必要だと考えています。

今回６社の教科書をそのような観点から拝見いたしますと、私は東京書籍、教育出版、それと帝国書院がすぐれていると思いました｡この３社の教科書はいずれも平易な文章で、写真やグラフ、新聞やイラストなどを活用して、子どもたちの興味・関心を高める工夫がされております。また、それぞれの章に、現代社会が抱える諸問題に対して、多様な立場や考え方を認識した上で、多面的・多角的な視点から解決を目指すことができるような多くのコラムや特設ページが用意されております。

この３社の中では、特に教育出版のコラムが充実していて、調査協議会の報告にもあるとおり､「読み解こう」のコラムでは、思考力・判断力・表現力を身につけさせ､「関連」のコラムでは、歴史や公民との関連箇所を示し、さらに「公民の窓」というコラムでは、視点を変えたり、視野を広げたりして、多面的・多角的な見方を身につけさせるなど、学習活動と身につけさせる力の説明が具体的でわかりやすいと思いました。生活環境や文化

の違い、あるいは世代間の違いなどの現代社会のさまざまな問題に対して、これからの中学生に何ができるのかを考えさせる、そういう大変工夫されたよいコラムになっているなというふうに思いました。

以上でございます。

そのほかの委員の方、お願いいたします。

○後藤委員　社会科（公民的分野）では、これも歴史的分野であったように、出版社によって編集の特徴が強く出ている教科書もありました。町田市の子どもたちにふさわしい、町田らしい学びの点で考えますと、あまり適していない教科書もあるというふうに判断しました。

公民の特色でもある、自分たちの暮らしの現状を知り、よりよい社会を目指してみずから考え、主体的に社会の形成に参画できるようになるためには、足元のことから世界のことへと広がる学びが大変重要だと考えています。これらの点から見ると、東京書籍、教育出版がバランスのいい教科書であると思いました。

これに加え、子どもたちにとって、地球規模でのＳＤＧｓへの取り組みや、新型コロナウイルス感染症についてなどの学習は、本当に今新たに学ぶべき内容になってきたと考えています。この点から見ますと、ＳＤＧｓが各内容を全面的に関連づけて構成したり、なおかつ、感染症と関連づけて内容を構成したりしているのが教育出版でした。

以上のことから、公民的分野は教育出版の教科書が適しているのではないかと判断しました。

○八並委員　私もＳＤＧｓの取り上げ方ということが１つ注目される点だと思います。教育長もおっしゃっておりましたが、多面的・多角的に物事を捉えられるように、そしてその中で多様性が認められる社会をつくることが重要になってまいります。そうしたときに、東京書籍は表紙の裏で「持続可能な社会の実現に向けて」という編集がされておりますし、教育出版につきましても、後ろ表紙の裏で「持続可能な未来を目ざす人々」ということで大きく取り扱われております。また、日本文教出版につきましても、表紙の裏で取り上げてありました。そのような観点を常に子どもたちが目にすることは大変重要になってくるのではないかと思います。

学習の仕方につきましては、私は東京書籍の「問いの構造図」、あるいは協同的な探究になります「みんなでチャレンジ」、あるいは「探究のステップ」などという「探究課題の解決を支援する問い」などは、学習を進めるのには非常に有益なのではないかと考えました。

また、教育出版の「読み解こう」のコラムや「公民の窓」は非常に興味深いものがありました。私は、教育出版か東京書籍のどちらかがよろしいのかと思います。

○井上委員　公民については、現代社会の中の抱える課題を見出し、みずから主体的にかかわっていこうとする力を養えるかどうかという点に着目し、２社を選びました。

東京書籍の「探究のステップ」では、みずから考え、議論し、探究課題を解決へ導くような問いが具体的に示されている点に工夫が見られました。また、教育出版の「読み解こう」は考えさせるのに適当な内容となっており、「公民の窓」では興味・関心を広げる工夫がされていると思いました。個人的には「学習のまとめ」が他社に比べて一番書き込みがしやすいとも感じました。

私からは以上です。

○森山委員　私のほうからは２社上げたいと思います。

１つが東京書籍の「新しい社会　公民」です。「探究のステップ」では、「探究課題の解決を支援する問い」が示されており、課題解決的な学習を行いやすいという工夫がなされていると思います。特に各章の導入部分の「気付いたことを出し合おう」というところで、探究課題についての「探究のステップ」としてこれを示しています。さらに、「まとめの課題」のところでは、問いを解決するという流れの中で、各節の探究課題を整理するという活動がこの教科書の中に取り入れられているところが非常に工夫されている点かと思います。

それから、教育出版の「中学社会　公民」の教科書については、「読み解こう」というところで、思考・判断・表現する力を身につけさせる。あるいは「関連」では、歴史と公民との関連箇所を明確に示しています。さらに「公民の窓」の中では、視点を変えたり、視点を広げたりといういわゆる多面的・多角的な見方を身につけさせるという学習活動と、その身につけさせるべき力が教科書の中でも具体的にわかりやすく示されているという点で、この２つの教科書を上げました。

以上です。

○教育長　委員の皆様からそれぞれのお考え、ご意見を頂戴いたしましたので、投票に入ります。

それでは投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　発表いたします。

東京書籍２、教育出版３、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、教育出版が過半数の３票以上を獲得いたしましたので、2021 年度使用教科用図書、中学校「社会（公民的分野）」は、教育出版に決定いたします。

続きまして、地図の教科について審議をいたします。

委員の皆様からそれぞれのご意見を頂戴したいと思います。

まず私から意見を述べさせていただきます。

地図につきましては、もう一読しただけで、２社の地図のサイズ、色合い、色調に大きな差があることがわかります。これは好みによるものだと思いますけれども、私は帝国書院のほうが明るく、鮮明な印象を受けました。また、地名や山の高低差といったことにつきましても、帝国書院のほうがはっきりしていてわかりやすいと感じました。１点、教科書の大きなサイズが気になりましたが、情報量の多さとか、町田市が地図にきちんと載っていること、また、調査協議会の報告の中で、地理的分野の教科書と同じ会社の地図とを合わせて活用することで学習効果が期待できるとされていることから、私は帝国書院を推したいと思っております。

以上でございます。

○後藤委員　地図は当然見やすさと活用のしやすさが重要なポイントであると考えております。両出版社ともによく工夫をしていると思います。

東京書籍の地図はＳＤＧｓを大きく取り上げているのが魅力的なところでもありました。また、先ほど教育長のほうからもありましたが、地理と地図の教科書との関係です。同じ出版社であるほうが、使用勝手というか、学び方に非常に効果が出てくるというふうに考えますと、地理的分野で先ほど選ばれた帝国書院の地図がよりよいということになると思います。この場合、ＳＤＧｓについては、帝国書院は地理的分野の教科書で取り上げているので、同様に学習できるというふうにも判断いたしました。

以上です。

○八並委員　私も地図に関しましては、地理と同じ出版社の教科書のほうが、系統的、効果的に学習ができるのではないかと考えますので、帝国書院の地図がよろしいかと思います。ただ、東京書籍のほうも、東京オリンピックに関してのページが大変充実しておりまして、来年開催されるであろうオリンピック・パラリンピックが開かれた際には、随分と子どもたちの興味を引くものになるのではないかなという点も上げさせていただきます。

○井上委員　結論から先に申し上げますと、帝国書院がよろしいかと思います。授業中の限られた時間の中で、調べたり、探す作業をスムーズに行うことができるのかどうかが重要になってくるかと思います。その点、帝国書院は、自社の写真が多く、表、グラフ、写真の色使いがはっきり、くっきりしており、長年の実績からの安定感を感じました。

私からは以上です。

○森山委員　２社の教科書が出ているわけですが、両出版社とも地図に対しての工夫が非常に見られます。特に中学生という立場に立って、生徒がみずからこの地図を活用できるという点では、どちらの地図も非常にすぐれているかと思います。

特に東京書籍の場合は、先ほども委員が述べられたように、巻頭から８ページにわたって、ＳＤＧｓを中心に諸課題を捉える特集のページを設けています。そういう意味では、非常に効果的な地図の使い方、それから縦書きの地図を効果的に取り入れるところとか、あるいは地球儀のかわりに使えるなど、このようなところに非常に特色のある地図だと思います。

それから、帝国書院の「中学校社会科地図」につきましては、非常に大判化で、地域の特色が非常に見やすい。これはある面では地図の一番重要な観点かと思いますが、そういうものに対しての理解が非常に促される地図になっている。それから、歴史、公民、あるいは修学旅行の事前事後の学習にも活用しやすいという協議会のご意見もございました。そういう意味では、帝国書院の「中学校社会科地図」がふさわしいかなと思います。

以上です。

○教育長　委員の皆様からそれぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入ります。

それでは投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　発表いたします。

帝国書院５、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、帝国書院が過半数の３票以上を獲得いたしましたので、2021 年度使用教科用図書、中学校「地図」は、帝国書院に決定をいたします。

続きまして、数学の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、委員の皆様からご意見をお伺いしたいと思います。

まず私の意見から申し上げます。

数学の教科書採択のときに毎回申し上げていると思いますけれども、私は数学という教科は、一度わからなくなってつまずくと、次に進む意欲がなくなってしまって、またそれを取り戻すにもなかなか難しい教科だと思っています。中学生になると、例えば最初から正の数と負の数といった抽象的な概念も求められてくる。そういう意味では、個人差もあらわれやすい教科ですので、子どもたちの学習への興味を引き出す工夫とか、それを継続させる工夫があるか、そういうような観点で見させていただいています。

今回の７社の教科書をそのような観点から拝見いたしますと、率直に申し上げて、どれも似通った工夫がされていて優劣つけがたいのですが、その中でも導入段階や振り返りの段階などで特別なコーナーを設けたり、図解を取り入れたりしながら、見やすくわかりやすいさまざまな工夫が感じられました東京書籍と、新興出版社啓林館といったところがすぐれていると思いました。

中でも、東京書籍は、調査協議会の報告にもございますように、目標を達成するために、既習学習、既に習った学習内容の定着を図るための問題が数多く設定されていて、「学びを振り返ろう」のコーナーでは、後々の学習でも使われる大事な見方・考え方をまとめる工夫がなされています。また、東京書籍はデジタルコンテンツが大変多く掲載されていて、数学の学び方や計算問題等が動画でも確認できて、ＩＣＴ機器を使った授業の中でも、あるいは家庭学習の中でも有効に活用できるのではないかと思いました。

以上でございます。

○後藤委員　数学も町田市の学力調査結果に大きく影響しています。国語科同様に東京都と同程度の結果というのが今の実態です。７社の教科書を見ますと、いずれの出版社も問題解決学習の展開を重視して、見通し、ノートへの記述、対話、振り返り、ＩＣＴ活用などをしっかり明示して、子どもの「主体的・対話的で深い学び」をできるように構成を工夫してあるということが上げられます。内容面とか紙面構成にあまり大きな差があるというふうに感じませんでした。

その中で、今般の学校休業中に求められた家庭学習で子どもたちがより自立的に学ぶ必要性、あるいは、もうすぐ実現する１人１台のクロムブックを使っての個別最適化の学習などを総合して考えますと、それらに適した教科書という点も、今回の採択では考えたほうがいいのではないかと思いました。これらの点から、東京書籍と学校図書が適していると判断いたしました。

以上です。

○八並委員　私は東京書籍または新興出版社啓林館のものがよいのではないかと思いました。中でも、東京書籍は、「数学の学び方」ということで問題を提示され、見通しを持って解決し、振り返り、深めるという編集になっておりましたし、非常にわかりやすくノート指導の部分がありました。また「数学の窓」、「学びをひろげよう」というコラムとか、巻末にある「数学の自由研究」などは、非常に興味深い編集になっているのではないかと思います。新興出版社啓林館に関しましても同じような編集でありましたが、特に身につける力として、ノート指導が非常に丁寧に示されていたのが印象的でありました。

ただ、これらの教科書の中で、もう一つ目を引いたのは表紙です。東京書籍の表紙が、ブロックでいろいろな立体図形をつくっているのですが、１年生は地図に建物のようなもの、２年生は工場のライン、３年生はジェットコースターなどがあらわされております。表（おもて）の表紙にはその図があり、裏表紙にはその図を真上から見たものが表示されているようなところがあり、図形を理解するときには非常におもしろい表紙になっているのではないかと思いました。

私からは以上です。

○井上委員　全社優劣つけがたく、共通して新学習指導要領にのっとった工夫が見られます。中でも、東京書籍は、取っつきにくいかたさがなくなり、現行の教科書よりさらに現代の子どもたちが見やすく感じる構成が特色だと思います。章の初めは生徒の興味を引くページになっており、苦手な生徒も拒否反応を示さないような工夫がされていると感じました。また、巻末に「深い学びを振り返ろう」、「数学の自由研究」があり、問題集とは違った角度からの数学の魅力に触れることができる点が評価できると思います。

次に、新興出版社啓林館も、シンプルながら非常に見やすい構成となっていました。ＱＲコードも解き方のヒントがあって、クイズのような感覚で、楽しく学習できるようになっていることがポイントでした。裏面から縦に開く仕様になっている部分は、ふだん解くのを諦めて早々に答えを確認してしまうような生徒にとっては、めくりづらくなってよいのではないかなと個人的に感じました。また「数学ライブラリー」は非常に興味深く、もっと知りたいという関心を持つきっかけになるのではないかと思いました。

私からは以上です。

○森山委員　私からは２つの教科書を上げたいと思います。１つは東京書籍の「新しい数学」です。もう１つが学校図書の「中学校数学」です。

東京書籍の「新しい数学」におきましては、まず算数から数学にかわるという、いわゆ

る算数と数学をつなぐ単元ということで０章という章がありましたが、小学校から中学校への移行の対応がなされているということと、見通しを持たせる導入の工夫がここで見られるという点が、教科書として非常に工夫がなされている点かと思います。

それから、先ほど表紙の話もありましたが、章の扉では、生徒の関心とか意欲を高める工夫として､ふだんの生活といいますか､そういう場面の一こまをイラストとして示して、そこから問いかけをする。そういう非常に主体的に生徒が学習に取り組めるような工夫が見られるという点です。

また、各委員からもありましたが、ＩＣＴ機器の活用への対応です。Ｄマークというのが数学の教科書の中にあるのですが、各学年の巻頭ページにあるＱＲコードからアクセスできて、デジタルコンテンツが利用できるということで、ＩＣＴを使った学習に最適な教科書というふうに言えます。

また、学校図書の「中学校数学」につきましては、章の初めに「振り返り」と「導入」という問いかけがあって非常にわかりやすい教科書になっています。それから、各単元の最後のところに「どんなことがわかったかな」､「できるようになったこと」のチェック欄が示してあります。数学は苦手な生徒も多いということで、こういう形で章ごとにチェック欄を設けるという工夫があるなど、これは学習内容を振り返るという点では、恐らく非常に効果のある教科書の１つだと思います。

そういう点からしまして、東京書籍と学校図書の教科書を選定いたしました。

以上です。

○教育長　皆様からそれぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入ります。

投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　発表いたします。

東京書籍５、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、東京書籍が過半数の３票以上を獲得いたしましたので、2021 年度使用教科用図書、中学校「数学」は、東京書籍に決定いたします。

続きまして、理科の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、各委員の皆様からご意見をお伺いしたいと思います。

まず初めに、私の意見から述べさせていただきます。

理科については、自然の事物・現象にかかわり、観察や実験などに関する技能を身につけ、科学的に探究する力や科学的に探究しようとする態度を養うことが目標とされております。理科に対する子どもたちの興味や関心を引き出したり、わかりやすい各分野の章立て等の工夫については、各社とも特徴を出しながらしっかり押さえられているなというふうに思いました。そういう意味では、各社拮抗している状況ですが、教科書のサイズや重さ、文字のポイントなどについては各社まちまちで、使いづらいだろうなというような印象を持ったものもございました。

そういう中で、私は大日本図書と新興出版社啓林館あたりが、大きく鮮明な写真や挿絵を豊富に使いながら、観察や実験の方法などについての説明がとても丁寧で、基礎・基本的な内容を初め、発展的な内容までわかりやすく教えていると感じました。特に子どもたちがみずから課題を発見して、その課題の解決に主体的に取り組ませるという観点では、少しマニアックな印象を受ける新興出版社啓林館よりも、大日本図書のほうが、余計な解説を入れないというか、解説に誘導されない、むしろシンプルで、より子どもたちにみずから考えさせるような取り組みに配慮した書き方になっていると感じました。

以上でございます。

○後藤委員　理科は自然事象を対象とする学びの教科ですから、子どもたちは本来、興味・関心を持って、探究することが楽しいということになるはずなんです。しかしながら、小学校から中学校になるにつれ、だんだんと苦手意識を持つ子どもがふえていく教科の１つでもあります。したがって、いかに興味・関心を持って子どもがみずから課題を見出し、仮説・検証を通して解決していく、その中で深く考察をして、考える楽しさを実感しながら知識を獲得していくことができるようになるのか、そういう探究するおもしろさを味わうことができるのか、そういうことが教科書に求められていると考えます。

教師にとって指導しやすいというものはもちろんですけれども、それ以上に子どもの学びやすさ、子どもにとって教科書を見ることによってその学びが理解できるのかということが重要な点だと考えます。理科嫌い、科学離れと言われて久しいのですけれども、そうさせないための教科書である、子ども主体の教科書であるということが期待されていると思います。

まず、巻頭に探究活動のモデルをわかりやすく示している教科書が学校図書と新興出版社啓林館だと私は見ました。具体的な紙面の展開では、探究活動の流れの中にイラストの生徒を登場させるなどして、教科書を使って勉強している生徒が実際にどのように仮説を

立てるかとか、検証計画を立てるかとか、実験観察の実施をどのように行うのかというのが自分事のようになっていく。それをどういうふうに考察して結論をつけるのか。生徒参加型といいますか、そういうような紙面構成というのが理科の教科書の学びには重要だと思っています。ここを構成しているのが学校図書と教育出版のものではないかと思います。

当然理科での活用場面の多いＱＲコード等、デジタルコンテンツは、いずれの教科書でも取り上げられていますが、一方、今日はよく言っていますけれども、自然とか科学技術との関連の大きいＳＤＧｓの取り扱いというのが、理科でも大きな役割を担っている気がします。３年生の最終章で扱っている教科書が４社、あまり扱っていない社が１社です。３年間を通じて最初から最後まで、要所要所で扱っているのが学校図書の教科書でした。地球規模で考えれば、足元から行動する、シンク・グローバリー、アクト・ローカリー、そういう人材の育成というのが理科教育でも求められている人間形成だと思っています。これらを総合的に勘案してみますと、学校図書の教科書はより適していると判断しました。

以上です。

○八並委員　私は大日本図書の「理科の世界」、あるいは新興出版社啓林館の「未来へひろがるサイエンス」がよいのではないかと思いました。中でも、大日本図書の中表紙にありますのが、それぞれ１学年では「動物の命を守る」ということで獣医さんからのメッセージ、３学年には「宇宙って面白い！」ということで宇宙飛行士の野口さんからのメッセージなどがあり、子どもたちが身近に感じられるような方からのメッセージを見ることによって、より理科の世界、科学の世界に目を向けるきっかけになるのではないでしょうか。

また、大日本図書、新興出版社啓林館どちらも小学校からのつながり、これまで学習したことということで、それぞれ押さえております。ただ、個人的には新興出版社啓林館で使っている写真のインパクトが非常に強くて、自然の中に溢れる生命・自然観察ですとか、そういったことに関しては非常に目を見張るものが編集されているのではないかと思いました。また、特に新興出版社啓林館が、３年間を通じて、「生命」、「地球」、「物質」、「エネルギー」、「環境」の順で構成されている点も非常に興味深いと思いました。

以上です。

○井上委員　東京書籍、大日本図書、新興出版社啓林館の３社が、主体的・対話的な学習に向けた工夫が見られたように感じました。

東京書籍は、今回冊子の形状が縦長と特徴的ですが、スマートフォンに慣れている子どもたちにとってはさほど違和感はなく、机に置いたときのスペースの配慮としては新しい

なと感じました。

大日本図書は、サイズの面で言うと、ノートと同じ大きさでなじみがよく、持ち運びやおさまりがよいと感じます。また、基礎と発展的な内容がバランスよく整理されて構成されており、安心して使うことができると感じました。

新興出版社啓林館は、随所にＱＲコードがあり、動画などのコンテンツも充実しています。例えばチリメンモンスターや、「動物園・水族館の展示方法」など、今まで気にはなっていたけど、詳しく知る機会のなかったものや、興味を引かれる内容が多数あり、学習意欲を刺激されるつくりとなっていると思います。

私からは以上です。

○森山委員　私からは３社上げたいと思います。

１つは東京書籍の発行の「新しい科学」です。先ほど井上委員からもお話がありましたが、これは特に冊子の形状が縦長のページになっています。ただ、実験の課題、仮説、実験、分析、この順番が時系列で非常にわかりやすくなっているということ、それから、自分の言葉で結論をまとめるというところにおいて重要な思考力・表現力を育てるという点では、教科書に非常に工夫が見られると思います。

また、大日本図書の「理科の世界」は、課題解決に向けた学習を効果的に進められるという点で、探究活動のページが教科書の中にしっかりと示されています。読解力の問題が多く準備されている点とか、実際の実験についての具体的な例などもあり、学びやすいという点では工夫が見られます。

また、教育出版の「自然の探究　中学理科」は、特に単元の初めとか、実験をする前に、問いかけが全てあります。これは課題を意識しやすいという理科の非常に重要な観点がここに示されています。そういう意味では、疑問、課題、仮説、計画、実験、考察、結論の順に学習が進んで、探究活動が進めやすいという点で、この３社はいわゆる探究的学習に非常に向いている教科書だと言えると思います。

以上です。

○教育長　それぞれのご意見を伺いましたので、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　発表いたします。

東京書籍１、大日本図書３、学校図書１、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、大日本図書が過半数の３票以上を獲得いたしましたので、2021 年度使用教科用図書、中学校「理科」は、大日本図書に決定いたします。

続きまして、音楽（一般）の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、委員の皆様からご意見をお伺いしたいと思います。

まず、私の意見から申し上げます。

音楽につきましては、音楽文化についての理解を深めるということで、表現教材・鑑賞教材の充実といったことが観点になると考えます。今回２社から教科書の候補本が出されていますが、両社とも写真やイラストを豊富に使って、また、作曲家や歌手、作家などの紹介を掲載したりして、子どもたちの興味・関心を高める工夫がされています。また、学習内容の系統性や、取り上げられている教材も甲乙つけがたいと感じております。

二者択一ということで迷うのですが、どちらかと言うと、教育芸術社のほうが、野村萬斎や松任谷由実などを掲載したり、今どきの中学生になじむ選曲があったりして、中学生にとっては興味・関心を持ちやすいと感じます。

また、調査協議会からは、教育出版の教科書には「日本の歌」の写真が楽曲と離れていたり、用語等の説明のページがとじ込みになっていたりして不便であるというような報告がございました。

加えて、教育芸術社の教科書にはＱＲコードが掲載されておりまして、ＩＣＴ機器を使った授業の中でも、あるいは家庭学習の中でも有効に活用できると思っております。これらのことから、私は教育芸術社の教科書を推したいと考えております。

以上でございます。

○後藤委員　音楽科の教科書、特に「音楽（一般）」は町田市教育プランに掲げた「うたひびくまちだ」の取り組みに直結するものだと考えます。

子どもたちが楽しく歌うための準備、歌声づくりについては、両方の出版社とも扱っているわけですが、その扱い方を見ていると、教育芸術社のほうが、より詳しく解説して、生徒にわかりやすく書いていると考えられます。また合唱曲も、教育芸術社のほうが生徒に親しみやすい曲を多く掲載しているなど、中学生の興味・関心を高める工夫があると考えました。さらに、国歌の学習の取り扱いですが、教育出版は、さざれ石の解説に重点を１つ置いているのに対して、教育芸術社は、国際的儀礼に重点を置く解説になっています。現代の子どもたちにとっては国際的儀礼にかかわるようなことも幅広く理解したほうがい

いのではないかと考えます。したがって、私は教育芸術社のほうが適していると判断しています。

以上です。

○八並委員　私も「うたひびくまちだ」として音楽の教育活動に非常に力を置いている町田市なので、その点からも選んでみたいと思いました。特に歌ということで、教育芸術社の「My Voice！」にあるような発声の仕方、また、どちらにもございますが、発声、リズム、指揮などの取り組み方の指導は、どちらかというと、教育芸術社のほうがわかりやすくまとめられているように思いました。

先ほど教育長が中表紙について述べられましたように、１年次には「伝統をつなぐ」ということで野村萬斎さん、２年次には「14歳の時間」ということで松任谷由実さん、３年次には「詩人と作曲家」ということで、子どもたちが合唱曲でよく歌うときの作詞・作曲に当たります谷川俊太郎さん、木下牧子さんからメッセージが贈られております。そのようなことから、生徒にとって非常に親しみ深い構成・編集になっているのではないかなというのが教育芸術社でありました。

以上です。

○井上委員　私も教育芸術社がよいのではないかと思います。生徒が興味・関心を持ちやすい選曲になっており、ＣＤジャケットが掲載されているページは、きっと誰もが手がとまることかと思います。写真や画像が充実していて見やすく、全体的に明るい印象となっており、「指揮をしてみよう」や「発声の仕方」などでは具体的なアドバイスがあり、非常に理解しやすい表現になっていると思います。また、オペラ、歌舞伎、文楽の舞台裏がわかり、今まで触れたことのなかった世界に親近感が湧きます。さらに、生活や社会の中での音楽やＳＤＧｓに触れている点も広がりがあり、環境の多様性を感じることができてよいと思いました。

私からは以上です。

○森山委員　私から意見を述べたいと思います。２冊ですが、これはいずれの教科書も非常に工夫が見られると思います。

特に教育出版の「中学音楽　音楽のおくりもの」におきましては、目次が色分け、細分化されており、生徒たちが内容を学習するに当たって非常に理解しやすい構成になっているという点、また、見通しを持って学習できる。「歌う」、「つくる」、「聞く」というふうに明確な分類がされている点が特徴的だと思います。また、題材の横に学習の目標が書かれ

ています。これは生徒にとって非常にわかりやすい教科書になっているかと思います。

それから、教育芸術社の「中学生の音楽」につきましては、学習すべき内容の系統図がそれぞれ示されています。それはどういうことかといいますと、表現あるいは鑑賞、それぞれの領域の学習が、ここでどのような形でその領域の学習をするのかという内容が掲載されている点に特徴があります。あとＱＲコードについても、教科書の中で適切に掲示されています。したがって、生徒がＱＲコードを使うことによって、非常に主体的に学ぶことができるという点で、総合しますと、教育芸術社の「中学生の音楽」の教科書が望ましいかと思います。

以上です。

○教育長　それぞれご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　発表いたします。

教育芸術社５、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、教育芸術社が過半数の３票以上を獲得いたしましたので、2021 年度使用教科用図書、中学校「音楽（一般）」の教科は、教育芸術社に決定いたします。

正午を過ぎましたので、ここで一旦休憩をいたします。再開は１時といたします。

休憩いたします。

午後０時 02 分休憩

午後１時 00 分再開

○教育長　再開いたします。

休憩前に引き続き、音楽（器楽合奏）の教科について審議いたします。

投票に先立ちまして、各委員の皆様からご意見をお伺いしたいと思います。

まず私から意見を申し上げますと、音楽（一般）の教科のところで申し上げたことと同様に、二者択一ということで迷うのですが、調査協議会からの報告にございますように、教育芸術社の教科書というのは、教育出版の教科書に比べて、口絵に楽器の持つすばらしさが記述されていて、子どもたちの興味・関心を高める工夫があり、７種類の楽器に加え

て、打楽器についての解説もある。また、器楽の学習の見通しが持てるように見やすく工夫されている。加えて、リコーダーの運指表、ギターのコード表、楽器の図鑑がわかりやすく使いやすいということです。これらの指摘から、私は教育芸術社の教科書を推したいと思っています。

以上でございます。

○後藤委員　音楽（器楽合奏）の教科書では、２社の違いと申しますと、まず学習内容の見通しの有無に違いがあると思いました。教育芸術社のほうが、学習内容の見通しが持てるようなよりよい構成をしていると思います。また、教育芸術社は、打楽器の種類を多く扱っている点とか、それらを詳しく解説している点、あるいは子どもたちが関心を持つようなバンドについても掲載し、生徒の興味・関心を高める工夫も随所に見られました。したがって、私も教育芸術社のほうが適していると判断しました。

以上です。

○八並委員　私も教育長、後藤委員と同じように、教育芸術社のほうがよいのではないかと考えました。それは１つには、打楽器をしっかりと説明しているところ、また、アンサンブルなどの曲も、例えば教育芸術社ですと、「笑点のテーマ」なども扱っていて、子どもたちが非常に興味を持って音楽活動に当たれるのではないかと感じたところであります。

しかしながら、教育出版のほうは、リコーダー、篠笛、尺八など、それぞれの奏者のメッセージがあるのに対して、教育芸術社のほうは、作曲者のメッセージということで、それぞれ違った観点から音楽に携わる方のメッセージがあるというのも、非常に興味深く思いました。

以上です。

○井上委員　両社とも口絵で楽器の持つすばらしさについて触れており、導入に有効であると感じました。ただ、打楽器のページが充実しており、使用頻度の高いリコーダーの運指表が折り込みでなく、見開き１ページになっているという点で、教育芸術社のほうがより望ましいのではないかと思いました。

私からは以上です。

○森山委員　２社の教科書が発行されているわけですが、両社それぞれ生徒の興味・関心を高めるための工夫が非常になされていて、先ほど申し上げたとおり、発展的な学習、あるいは調べ学習とか、そういうことについても、生徒がすんなりと実際に学習できるような工夫がなされている点が、どちらの教科書にも見受けられました。特に生徒の興味・関

心を高めるための工夫について、あるいは学習の深化を図るという点については、教育芸術社の「中学生の器楽」の教科書のほうが工夫が見られ、生徒にとっては興味・関心が高まるのではないかと判断いたしました。

以上です。

○教育長　それぞれご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

投票用紙を準備してください。

（投票）

○教育総務課長　発表いたします。

教育芸術社５、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、教育芸術社が過半数の３票以上を獲得いたしましたので、2021 年度使用教科用図書、中学校「音楽（器楽合奏）」は、教育芸術社に決定いたします。

次に、美術の教科について審議いたします。

投票に先立ちまして、各委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

まず私から意見を述べさせていただきます。

美術については、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かにかかわる資質・能力を養うということが学習指導要領の中で目標とされています。

今回、候補本として３社から教科書が出されていますが、いずれも原寸大の鑑賞図版を掲載したり、絵巻や版画を和紙に印刷したりいたしまして、子どもたちにより実物の作品鑑賞に近い体験を通じて関心を持てるように工夫されていると感じました。しかし、一方で、教科書というのは、絵画や造形作品のカタログではございませんので、それが子どもたちの創作意欲につながるような工夫が必要だと考えます。

そのような観点から見ると、私は光村図書出版、あるいは開隆堂出版あたりがすぐれていると感じました。これは好みの問題だと思いますが、一見してレイアウトに統一感があって、鑑賞作品等で視覚に訴えるものを感じたのは光村図書出版でした。特に「風神雷神図屏風」ですとか、ピカソの「ゲルニカ」などの大判の鮮やかな写真が非常にインパクトがありました。また、今回の教科書には、レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」にトレーシングペーパーがかぶせてあって、遠近法の技法を確認できるような仕組みもあって、子どもたちにとって、とても興味深い体験ができると思いました。

実際のところ、学校では、美術の時間の中でも、鑑賞の時間というのはなかなかとれない、まして本物を鑑賞する機会というのは大変少ないというようなお話をたびたび伺っております。現在の環境ではなかなか難しいですが、子どもたちがこのような教科書を見たことを契機にして、本物を見たいとか、美術館へ行きたいとかいうように思ってくれればありがたいと思っております。

以上でございます。

○後藤委員　美術では、学びの対象に関心を抱かせて、見通しを持ちながら、みずから表現活動していくことをどう導いていくのか、また、作品をつくったり鑑賞したりして、表現を楽しむことがどうできるか、そういうことをいざなうような教科書といいますか、それが重要なんだなと考えています。

この点から見ますと、開隆堂出版は全般的にきれいに整理をされた教科書という印象がありました。光村図書出版は自由度といいますか、自由な表現を大切にした教科書、日本文教出版はその中間にあるというような印象を私は持ちました。

基本的技能の習得や用具の安全な使い方、ＱＲコードを活用したデジタルコンテンツなどを効果的に取り入れることは、３社の出版社はどれもバランスよく押さえているというふうに見えました。では、生徒にとっての学びのプロセスは、どこがわかりやすく表現されているのかなというふうに判断すると、光村図書出版の教科書が一番わかりやすいのではないかと思いました。また、表現と鑑賞が一体に学べるような構成を工夫しているのも光村図書出版ですので、これも使いやすさの点では効果があるのではないかと思っています。したがって、光村図書出版が適していると判断いたしました。

以上です。

○八並委員　教育長、後藤委員がおっしゃったことと同じではございますが、私も光村図書出版の教科書がよいのではないかと思いました。中でも、授業の流れを意識してつくられているような編集内容というふうな調査協議会からの報告にもありますように、非常にまとまりがあるように思います。

ただ、日本文教出版は、生徒たちの関心を引く工夫が非常にありまして、表紙にフェルメールを使っていたり、中表紙にアニメーション「となりのトトロ」の一場面と松任谷由実さん、またガウディなど、生徒たちが目にしたことのあるような内容が最初に来ているということで、興味・関心を引く工夫が非常にできていると思われます。

また、開隆堂出版も含め、３社ともピカソの「ゲルニカ」を取り扱っておりますが、光

村図書出版、日本文教出版などのように見開きで眺められるというのも、子どもたちに鑑賞させるというところを重要視されているのではないかと感じました。

以上です。

○井上委員　各社それぞれ特色があり、構成の完成度が高く、とても悩みました。

開隆堂出版は、全体的にシンプルですっきりとしたつくりながら、図版は非常に見やすく、原寸の資料などが含まれており、作品に触れる手がかりになるような工夫がされていました。また、錯視効果を利用したパッケージのラベルデザインや、木でつくる遊びの形など、創作意欲を高める題材となっているのが印象的でした。

光村図書出版は、題材とともに資料があり、「みんなの工夫」では、具体的な手法に沿って創作に臨むことができるというのが他社にない最大の魅力であると感じます。それにより、自分でもできると活動に対して前向きな姿勢になり、それが生活や社会につながっていくことを体感できるのではないでしょうか。また、「絵巻物と漫画」や、「君の名は」のポスター、チームラボの映像メディアなど、生徒にとって身近な題材がちりばめられている点も、あまり美術を得意としない子をも引き込む魅力となっていると思います。そして「空想の世界へようこそ」、「想像の生物をつくる」、「あれ？どうなっているの」では、アイデアや想像力を生かすことができ、わくわくするつくりになっている点がよかったと思います。

以上です。

○森山委員　この３冊の教科書ともに生徒の学習に適切に対応しているという工夫がなされていると思います。例えば学習の目標をどのように扱っているかといいますと、開隆堂出版の「美術」においては、「知」、「思」、「学」という３つで、各題材の学習の目標を生徒にしっかり伝えるように教科書が構成されています。また、光村図書出版の「美術」においても、各題材の学習の目標を、３観点を踏まえて示しています。日本文教出版の「美術」の中にも、題材ごとに身につけたい力を３つの学びの目標として示しています。そういう意味では、３社ともに学習の目標を非常に明確に示しながら、生徒がみずから美術の学習ができるような、また、ゴールがどのようなところかという観点が明確に示されている教科書だと思います。

その中でも、特に光村図書出版の「美術」は、鑑賞資料の中でトレーシングペーパーがとじ込まれて、書き込みができるように配慮されている点とか、あるいは１つのテーマに対する写真の例が非常に多く使われています。

また、日本文教出版の「美術」においては、原寸大の鑑賞の図版がふんだんに掲載されています。そういう意味では、実物の作品鑑賞に近い体験ができるように配慮されているという特徴があろうかと思います。

そういう意味において、光村図書出版の「美術」、日本文教出版の「美術」の教科書を取り上げたいと思います。

以上です。

○教育長　それぞれご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

投票用紙をお配りいただきます。

（投票）

○教育総務課長　発表いたします。

光村図書出版４、日本文教出版１、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、光村図書出版が過半数の３票以上を獲得いたしましたので、2021 年度使用教科用図書、中学校「美術」は、光村図書出版に決定いたします。

続きまして、保健体育の教科について審議いたします。

投票に先立ちまして、各委員の皆様からご意見をお伺いいたします。

まず私の意見から述べさせていただきます。

保健体育は心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成するということが教科・分野の目標として示されています。

こういう趣旨を踏まえて、今回４社が教科書を作成しておりまして、各社とも体育分野、保健分野という構成の順番こそ違うところがございますが、各章の導入での関心を引き出すための配慮とか、さまざまなコラム、コーナーを設けての解説、あるいは巻末のまとめや資料など、さまざまな特色ある工夫がされていて、どれも充実していると感じました。

各社それぞれに特徴ある工夫があって拮抗しているのですけれども、その中では、東京書籍、あるいは学研教育みらいあたりが、先生方にとって使いやすいのではないかと考えています。特に学研教育みらいでは、イラストや本文の色合いとか構成が優しくて、親しみやすい印象があって、調査協議会からの報告にもございますように、単元ごとに「学習の目標」がしっかりと示されていて、学習する内容があらかじめつかみやすく、「課題をつかむ」、「考える・調べる」、「まとめる・深める」といった内容で構成される中で、それぞ

れの発問には注釈がついていて、「振り返り」、「調べる」、「まとめ」というような生徒の学習指導への適切な指示が示されています。また、関連するウェブサイトへのガイドが掲載されていて、独自の動画も配信されていることから、ＩＣＴ機器を使った授業の中でも有効に活用できると思いました。

以上でございます。

○後藤委員　保健体育の教科書は、生徒の学習に教科書に示された内容や学び方が直接大きく影響するものだと考えます。どの出版社も課題解決学習の流れ、あるいはブレーンストーミング、調査方法、情報収集などの学び方、これらは丁寧に扱っている構成になっていました。その中で、よりわかりやすい紙面構成とか学びやすい教科書というものがどれかという視点を吟味しました。それに加えて、教科特性として、オリンピック・パラリンピック教育の関連がどう扱われているかという点は当然として、ＳＤＧｓに関する内容、新型コロナウイルス感染症につながるような感染症対応、町田市で重視している熱中症予防とか自然災害時の対応の内容など、その学んだことを子どもたちがしっかり使えるような構成になっているかということも視点にいたしました。

その結果、これらを見たときに、バランスよく構成している教科書としては、東京書籍と大修館書店の２社が適していると判断しました。

以上です。

○八並委員　どの社もいろいろ工夫をされて編集されていたのですが、中でも１つ私が気になったのは、思春期の取り扱い方ということがあります。１つは、大日本図書では、「異性に対する理解と尊重」、「責任ある行動」ということが、本文の太字だけではなく、項目として取り上げられていることは非常に興味深いと思いました。また、それに対して、学研教育みらいの教科書は、「性とどう向き合うか」というところが非常に丁寧で、またストレスへの対処法というのが、他の会社に比べて非常に丁寧でわかりやすい言葉で説明されているように感じました。また最近では、生徒の中でも肥満であったり、痩せ過ぎであったりというような体調不良を抱えている生徒も多いと聞いております。そういった中で、各社とも食事に関しても非常に工夫をして、生活の中の食事、あるいは運動したときにどのような食事をとればよいかというような項目が非常に充実しているように思いました。私は、そういった観点から、学研教育みらい、または大日本図書がよいのではないかと思いました。

○井上委員　先ほど後藤委員からもお話があったように、今まさに心配されている熱中症

対策や震災を初めとする自然災害について、きちんと触れられているかという点も重視しました。大日本図書は、特徴的なつくりとして、章の終わりの「学習のまとめ」が確認問題ではなく、「重要な言葉」のまとめになっており、問題はウェブで各自確認する形となっております。「学びを活かそう」では、みずから考えて主体的に取り組めるような自由記入欄なのが特徴的だと思いました。また、大修館書店は、章の終わりの「学習のまとめ」に自己評価がついているのが特徴的だと思いました。

その中で、東京書籍、学研教育みらいあたりが適当なのではないかなと思います。東京書籍は、独自の動画がとても充実しており、学研教育みらいは、構成がよく、資料が見やすいのが特徴だと思います。特に学研教育みらいは、かた過ぎず、ポップな印象もあり、章末の「探究しようよ！」で学習内容を深めることができる点がポイントだと感じました。

私からは以上です。

○森山委員　どの教科書も生徒の学習の過程（プロセス）を大切にするという点で、保健体育の学習が円滑に進むように工夫されているところがあり、非常に充実している教科書だなと思いました。特に東京書籍の「新しい保健体育」では、学習の流れを「みつける」、「課題の解決」、「広げる」で構成されており、それに対する発問があわせて用意されています。また、デジタルコンテンツの内容が一覧になっています。動画も独自に作成した内容が多く含まれていて、補助教材としても十分充実しているのではないかと思います。

それからもう１社、学研教育みらいの「中学保健体育」という教科書ですが、これはそれぞれの発問に注釈がついています。その上で「振り返り」、「調べる」、「まとめる」といった生徒がみずから学習へ取り組めるような指示が示されています。その上で、加えて、ウェブサイトへのガイドも非常に盛りだくさんに掲載されています。独自の動画も配信されているということで、非常に充実した教科書ではないかと思います。

以上です。

○教育長　委員の皆様からそれぞれご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　発表いたします。

東京書籍２、学研教育みらい３、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、学研教育みらいが過半数の３票以上を

獲得いたしましたので、2021年度使用教科用図書、中学校「保健体育」は、学研教育みらいに決定いたします。

引き続きまして、技術・家庭（技術分野）の教科について審議いたします。

投票に先立ちまして、各委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

まず私から意見を述べさせていただきます。

技術分野というところでは、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によって、よりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成するということが目標に示されております。

これを踏まえて、今回３社から教科書が出ておりますが、学習指導要領に示されているＡの「材料と加工の技術」、Ｂの「生物育成の技術」、Ｃの「エネルギー変換の技術」、Ｄの「情報の技術」についての分量・取り扱い内容ですとか、今話題のソサイエティ5.0とか、ＳＤＧｓ、ＩＴ等に関する説明も遜色がないというような印象を持っています。率直に申し上げて、調査協議会の報告書を見ても、甲乙つけがたいと思っています。

そうすると、あとは現場の先生方は、教科書のサイズや文字のポイント、強調する部分の太字など、子どもたちにとってなるべく見やすいものをというような思いがあるようですので、それでいくと、私は開隆堂出版かなというふうに思っております。加えて、開隆堂出版の教科書には、巻末に携帯電話の利用についての記載があって、今問題になっているネットトラブルへの対応というのが詳細に書かれていることも好ましいと思っております。

以上でございます。

○後藤委員　技術分野の３社の教科書を見ますと、巻頭のほうに学び方、安全について、ガイダンス、それらを非常によく工夫して構成して、技術科の教科書らしく、ものづくりや情報活用について整理されていると思いました。学習プロセスも３社ともよく整理されてわかりやすいなと思っております。

選定に当たってのポイントをさらにつけ加えると、町田らしい学びという視点から、思考ツールの活用を図っているかとか、対話の工夫などの学び方を丁寧に示しているかという点と、ＳＤＧｓとテクノロジーの関連というのは大きいですから、その辺にどう重点化しているかという点を判断しました。その結果、私は東京書籍が適していると思います。

以上です。

○八並委員　私も教育長、後藤委員のおっしゃったとおり、各社の差を見つけるのがなか

なか大変だったという感じを受けました。その中でも、後藤委員がおっしゃったようなＳＤＧｓに対することや思考ツールなどについては、東京書籍のものが非常に工夫されて編集されていました。また、教育長もおっしゃっておられましたが、右ページの上のところに、各項目に関連した小さなアイコンがついていまして、それを見ているだけでも楽しいかなと思ったりもするので、そういう工夫がされているところが開隆堂出版なのではないかと思います。

以上です。

○井上委員　私は東京書籍か開隆堂出版がいいのではないかと考えております。

東京書籍は「問題解決の評価、改善・修正」が記載されており、「学習のまとめ」を総合的に振り返ることができるのですが、プログラムの作成で終わりではなく、客観的に振り返ることを大切にしている視点がよいと感じました。

開隆堂出版は、文字が大きく、シンプルで見やすいのが特徴かと思います。ゲームアプリの開発現場をのぞいてみるなど、今まで知り得なかった世界に触れ、将来の展望に絡めることができている点はとてもよいと感じました。

私からは以上です。

○森山委員　私から意見を述べたいと思います。

３社とも技術・家庭の技術分野の内容を、図、写真等をふんだんに使って、カラーをたくさん使いながら､生徒たちに非常にわかりやすいような工夫がなされていると思います。

その中でも、東京書籍の「新しい技術・家庭　技術分野」の教科書では、学習のまとめが領域ごとそれぞれに総合的に振り返ることができるという利点があります。それから、小学校や他教科とのつながりがわかりやすく記載されている点が工夫されているのではないかと思います。

それからもう１点、開隆堂出版の「技術・家庭　技術分野」の教科書については、先ほど各委員からもお話ありましたが、巻末に携帯電話の利用等が記載されていて、ネットトラブル等への対応が詳細に記載されているという点、このあたりのところも現代的な意味をしっかりと学ぶという意味では重要な観点かと思います。

以上です。

○教育長　委員の皆様それぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　発表いたします。

東京書籍３、開隆堂出版２、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、東京書籍が過半数の３票以上を獲得いたしましたので、2021 年度使用教科用図書、中学校「技術・家庭（技術分野）」は、東京書籍に決定いたします。

それでは次に、技術・家庭（家庭分野）の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、各委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

それではまず、私から意見を述べさせていただきます。

家庭分野では、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し、創造する資質・能力を育成するということが目標になっております。

これを踏まえて、３社の教科書が出ております。率直に申し上げて、この３社の教科書についても、内容的には甲乙つけがたいと思っていますが、調査協議会の報告にあるように、開隆堂出版の教科書の巻頭に書かれております「家庭分野のガイダンス」というコーナーが大変充実していて、中学校３年間の学習の見通しを持たせることができるということ。特に家庭科の「生活の見方・考え方」というコーナーが具体的に示されていて、「主体的・対話的で深い学び」についての学習の流れが記載されているので、考える道筋がわかる仕組みになっているということ。加えて、技術分野の教科書同様、教科書のサイズや文字のポイント、強調する部分の太字などが、子どもたちにとって見やすいと感じること、これらのことから、私は開隆堂出版を推したいと思っております。

以上でございます。

○後藤委員　家庭分野も、先ほどの技術分野のように、３社の教科書とも巻頭に学び方とか安全などのガイダンスで構成し、多くのページを割り当てています。各内容の紙面構成も課題解決型になっている点であるとか、ＱＲコードなどのＩＣＴ活用の工夫なども、どの社も充実して、いずれもわかりやすく、学びやすい教科書になっていると思います。

では、選定に当たってのポイントとして、この分野におけるＳＤＧｓの扱いを見てみますと、開隆堂出版の教科書は、ガイダンス内にＳＤＧｓを取り上げて、具体的な内容を学習のまとまりごとに扱っているという構成です。一方、東京書籍は、学習のまとまりごとに、持続可能な生活についてまとめて、それを最終的にＳＤＧｓと関連づけているという

構成で、教育図書は、「消費生活・環境」の内容で集中的に扱っているということで、それぞれ扱い方に違いがありました。総合的に見ると、目的意識を持って勉強するにはどれがいいのかと考えると、最初にグローバルな視点で、あるものを提示して、個々のものを結びつけていきながらそれをまとめていくというような形が理想ではないかと思って、開隆堂出版の構成が適していると判断しました。

以上です。

○八並委員　私は、開隆堂出版あるいは東京書籍の教科書がよいのではないかと思いました。

１つには、開隆堂出版は「家族・家庭生活」から始まっています。今の世の中をあらわしている項目ではないかと思います。特徴的な編集になっていると思いました。また、先ほど来上がっておりますが、ガイダンスが非常に充実しているということ、また、「生活の見方・考え方」というところでＳＤＧｓを取り上げていて、そこから各項目の学びにつなげるところが開隆堂出版は非常によいと思いました。

また、東京書籍は、しっかりとガイダンスもありますし、「持続可能な社会をめざして」という項目をしっかり押さえていると思いました。

あと、美術の教科書のときにも申し上げましたが、開隆堂出版は、右上のところに各項目に関するアイコンがありまして、例えば「家族・家庭生活」では、赤ちゃんから幼児の表情、食生活においてはいろいろな食品が載っていたり、そのようなことも、とても興味を引く構成になっているのではないかと思いました。

以上です。

○井上委員　私も東京書籍と開隆堂出版がよいのではないかと考えます。

東京書籍はオリジナルキャラクターがたくさん出てきたり、パラパラ漫画をつけて親しみやすさを持たせる工夫ができていると感じました。Ｄマークの動画は本当に見やすく、調理実習のページは、手順等を含め、構図バランスがとてもよいと感じました。また、各章の最後には、常にＳＤＧｓを意識したものを示しており、こちらも工夫ができていると感じました。

開隆堂出版は、章初めの一面の写真が導入に使いやすく、調理実習では、アレルギー物質の表記が一番きちんとなされており、調理方法の不思議について一番詳しく説明されていました。

私からは以上です。

○森山委員　私は、３社の教科書ともに、技術分野の教科書と同様に、カラーでわかりやすい写真、図をふんだんに利用して、生徒の理解が進みやすいような工夫がなされていると思います。

その中でも特に、東京書籍の「新しい技術・家庭　家庭分野」では、「家庭分野のガイダンス」のところが非常に充実しているということと、各委員からもお話がありましたが、各章の最後の「持続可能な生活をめざして」というところで、これが常にＳＤＧｓを意識して示されているというところに特徴があろうかと思います。

それから、開隆堂出版の「技術・家庭　家庭分野」では、学習の流れが生徒に非常にわかりやすく示されていますので、学習するに当たっては、非常に明確でわかりやすい教科書ではないかと思います。また、ＱＲコードから動画を見ることができるようになっていますので、非常に使い勝手がいいというか、そういう学びの広がりにつながるような工夫がなされている教科書だと思います。

以上です。

○教育長　それぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　発表いたします。

東京書籍２、開隆堂出版３、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、開隆堂出版が過半数の３票以上を獲得いたしましたので、2021 年度使用教科用図書、中学校「技術・家庭（家庭分野）」は、開隆堂出版に決定いたします。

それでは次に、英語の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、各委員の皆様からご意見をお願いいたします。

まず私の意見から述べさせていただきます。

英語につきましては、英語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」の言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したり、伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成するというような目標が示されておりまして、これを踏まえて、今回６社の教科書が用意されているわけですが、調査協議会の報告書を見ますと、いずれの教科書もそれぞれに特徴や工夫があるものの、当然ですが、一長一短があると感じました。

小学校では、既に今年度から新学習指導要領にのっとった英語の授業が始まっておりますが、町田市では、以前から国の動きを先取りして、小学校の英語教育に先進的に取り組んでまいりました。2009年度から玉川大学と協働で小学校英語のオリジナルカリキュラムを開発いたしまして、このカリキュラムを活用して、小学校１年生から４年生に対する独自の英語の授業に取り組んできました。このカリキュラムは、外国の絵本を活用して、英語を使う場面と結びつけて英語を学べることだとか、文化の違いを学ぶことができるというような特徴を持っております。リズムに合わせた発音練習や、英語の歌なども取り入れて、「英語って楽しい」とか、「英語を使ってみたい」と感じることができる町田ならではの授業づくりを進めているところでございます。

私は、これまで進めてきた英語に親しむ、慣れる、楽しむといった内容の活動が、中学生になった途端､英語が嫌いになるというような状況は絶対に避けたいと思っております。そのような観点で見たときに、私は、今回の６社の教科書の中では、光村図書出版、東京書籍、三省堂あたりが、子どもたちにとって、また先生にとっても使いやすいのではというふうに感じました。

特に光村図書出版の「Here We Go！」は、１人の主人公が入学から卒業までの３年間で体験するさまざまな教育活動の話題を題材にしておりまして、子どもたちにとっては大変身近に感じ、また内容も易しく、わかりやすい構成になっていると思います。また、デジタルコンテンツが多く掲載されておりまして、ＩＣＴ機器を使った授業においても、家庭学習においても、活用度が高いと感じました。

以上でございます。

○後藤委員　中学校英語は、小学校英語科の導入により、これまでの中学校の英語科の教科書にとどまらず、いかに小学校との連携が図られているか、あるいは中学校らしい学びで構成されているかなどが判断の視点になると思います。

まず小学校との連携を各社の教科書で見てみますと、これは非常によく工夫をしていると思います。中でも、特にスムーズなつながりから、中学校英語の学びの見通しが持てるまで、そのような一貫した流れを構成しているのが開隆堂出版、光村図書出版で、これらの社が入門に関してのつなぎに適しているなと思いました。

次に、「えいごのまちだ」である町田市の英語の学びに適した内容として、調査協議会報告書にもありますが、人権、文化、ロボット、グローバルな題材がある三省堂、歴史、文化、ＡＩ、観光などの題材がある光村図書出版、自然保護やＡＩ、人権、マナー等の題材

がある開隆堂出版などがいいのではないかと思います。

どの社もＱＲコードなどのデジタルコンテンツは工夫をしており、アクティブに学ぶことができるような構成とか、自宅での学習フォローにも活用できるように準備をしています。学び方の構成では、めあてを示し、見通しを持たせ、知識・技能を習得し、それらを活用して、また対話的に学んでいく。発信し、振り返るなど、生徒にとって学びやすく、理解が深まり、そしてコミュニケーション能力が育まれるような教科書が求められます。この点からは東京書籍や光村図書出版の教科書がよりよいと思います。これらのことを総合的に勘案しますと、光村図書出版が適しているのではないかと判断しました。

以上です。

○八並委員　各社ともとてもよく編集されているなという印象であります。中でも、光村図書出版の「Here We Go！」、三省堂の「ＮＥＷ　ＣＲＯＷＮ」、東京書籍の「ＮＥＷ　ＨＯＲＩＺＯＮ」などは、とてもわかりやすい編集ではないかなと思いました。

光村図書出版は、１年次が「やってみよう」、「Always make new mistakes！」、２年次が「見つけよう」、「Discover your dreams！」、３年次が「続けていこう」、「Practice makes perfect！」ということで、それぞれの学年の目標が、１年次は自分のこと、日常生活を伝えられるようになろう、２年次は自分の町や日本の文化について、３年次には社会的な問題について、英語で表現できるようになろうというような目標が立てられておりました。

また、三省堂の「ＮＥＷ　ＣＲＯＷＮ」では、「言葉を使うことは思いを伝えること」、そして使い、かかわり、お互いを認め合う、考えること、自分と向き合うこと、そして、学ぶ、自分の可能性を広げるということで工夫されております。そこにも各学年、英語でのメッセージがありまして、１年次は「言葉を使う」、「Languages around the world」、２年次は「かかわる」、「Lives around the world」、３年次は「考える」、「Think about the world」、そのような形でメッセージを送りながら構成されておりました。

同じように東京書籍の「ＮＥＷ　ＨＯＲＩＺＯＮ」にも、１年次で「英語で世界とつながろう」、２年次で「英語を通して世界を広げよう」、３年次で「英語を通じて世界を見直そう」というＳＤＧｓに結びつけた編集になっております。

中でも、それぞれの教科書にとても魅力的な教材もありまして、例えば東京書籍の３年次に、スティーブ・ジョブズの卒業式でのスピーチがあったりします。共通の教材もありますが、それも教材の内容として子どもたちにしっかりと取り組んでもらいたいなと思えるものが多かったです。

以上です。

○井上委員　東京書籍、三省堂、光村図書出版の３社がいいのではないかと考えています。

東京書籍は、全体的に絵や写真がカラフルで、非常に見やすい構成となっていますが、コラムなど解説が多く、情報量は多めなので、全てをこなすのは少し大変かもしれません。

三省堂は、小学校と同じ出版社なので、スムーズに英語に違和感なく入っていける点では安心感があります。ただ、知識を吸収したい生徒だけではなく、全員が積極的に英語を学んでいく姿勢が必要とされる教科書かと思います。

光村図書出版は、中学生の生活の流れや行事をなぞっているので、生徒が一番身近に感じるのではないかと思います。また、ＱＲコードの動画も見やすく、町田のＩＣＴ教育と「えいごのまちだ」という地域性を生かせる内容になっているのではないかと考えます。

以上です。

○森山委員　私は、東京書籍の「ＮＥＷ　ＨＯＲＩＺＯＮ」と三省堂の「ＮＥＷ　ＣＲＯＷＮ」の教科書を上げたいと思います。

まず東京書籍の「ＮＥＷ　ＨＯＲＩＺＯＮ」ですが、小・中・高の学びを見通して、明確な到達点に向かって学習が進められるように、ＣＡＮ―ＤＯリストというのが示してあります。これが学習を進める上で非常に効果的ではないかと思います。また、振り返りや自己評価を行うことができるという点で、英語学習に最適な教科書ではないかと思います。加えて、紙面についているＱＲコードを機器で読み取ることによって、手軽に本文と語句欄の音声を聞ける。そういう音声を活用した学習もできるという点に大きな特徴があろうかと思います。

もう１点、三省堂の「ＮＥＷ　ＣＲＯＷＮ」は、各課の最初で学習の見通しを立てさせ、文法事項の定着、内容理解、読むとか、話すとか、書くという活動などを基本としているところに、英語の基本的な構造が明確に示されていると思います。あと、巻末にも、振り返りのページで学習内容の確認ができる。加えて、先ほどコミュニケーションのお話がありましたが、ディベートやディスカッション、そういう意見を述べるというところに相当ページ数を割いています。そういう意味では、小学校からの流れの中での中学校の教科書として最適な教科書であると思います。

以上です。

○教育長　それぞれのご意見ありがとうございました。

委員の皆様からご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　発表いたします。

東京書籍１、光村図書出版４、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、光村図書出版が過半数の３票以上を獲得いたしましたので、2021 年度使用教科用図書、中学校「英語」は、光村図書出版に決定いたします。

それでは次に、道徳の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、各委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

まず私の意見を述べさせていただきます。

昨年度から導入されました中学校の道徳については、学習指導要領の中では、「考え、議論する道徳への授業の転換」ということがポイントとされていて、子どもたちに物事を多面的・多角的に考えさせ、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲を育てる、そういうことを意識した授業が求められていると思います。具体的には、教科書の中の教材から、子どもたち一人一人にどう考えるか、どう捉えるかを自分で考えさせ、判断させる、そういうことを目標にしていると受けとめております。

今回の道徳の教科書は７社から作成されておりまして、各社それぞれに特徴や工夫があるわけでございますが、ほとんど全ての教科書の各教材の冒頭とか脚注あるいは終わりの部分に、あらかじめその教材のリード文と言うのでしょうか、「考え方」とか「ねらい」、教材の内容についての「発問」などが書かれております。また、ワークシートなどがついているものもあるわけです。私は、「ねらい」とか「発問」にあまり具体的な内容を載せ過ぎると、子どもたちのみずからの考えを変えていくというか、押しつけることになったり、１つの答えに誘導することになったりして、かえって先生方の指導内容が縛られたり、子どもたちも１つの正解を探るようなことになるのではないかと考えております。

もう一つ、実際の道徳の授業をイメージしたときに、まず教材を読み込んで、一人一人に考えさせて、それを持ち寄り、ほかの子のいろいろな考えを聞く。「そういう考え方もあるんだ」とか、「１つの事柄にもいろいろな側面があるんだ」というようなことを話し合ったり、メモをとったり、考えたりする時間が結構必要だと思います。そういう場面で、町田市が今、全校に配備しているクロムブックというタブレット端末を使っていただければ、

その機能を使って随分有効に活用できると思うところです。話がそれましたが、国語の授業ではないわけですから、例えば登場人物の心情分析だけで終わってしまうようなことはできない。議論することが大事なのですから、そういう意味では、一つ一つの教材の分量が長過ぎないということも観点の１つになるのかなと考えました。

そのような観点で見たときに、私は今回の７社の教科書の中では、日本文教出版と学研教育みらい、廣済堂あかつき、このあたりが、子どもたちにとって、また先生方にとっても使いやすいのではないかと感じました。この３社の中でも、特に学研教育みらいについては、教材文の分量が適切で、各教材のリード文や主題名、発問などもシンプルなもので、子どもたちの主体的な考えを尊重しての構成というふうに感じられました。教材の内容も、会話文が多くて、わかりやすい表現で、中学生が身近に感じ、興味・関心を引くものが多いというような印象を持ちました。

私からは以上でございます。

○後藤委員　昨年度の小学校教科用図書採択の場でも申しましたが、中学校道徳の教科書は使用して２年目です。現行本とあまり大きく変わっていないものもありますので、当時の採択の意見ももう一度見返して参考としました。

まず学び方については、教材と出会って、問題に気づき、自分で考え、表出し、他者の考えを受けとめる。そして考え、議論して、自分の生き方につなげていくような構成であるという視点で見ると、教育出版、学研教育みらい、日本文教出版が、よりよい構成だと思います。

また、巻末の「振り返り」、あるいは「学びの記録」というところが各社あるのですが、「道徳ノート」をセットにして、毎時間、記述用にしているところが２社、学期ごとのみ行うところが２社、１年間のみが１社、メモ程度の毎時間のチェックと学期ごとやるところが２社というふうに「振り返り」、あるいは「学びの記録」のとり方に違いがあります。「振り返り」の中の授業の取り組み姿勢について、４段階でチェックを設けている出版社が５社ありました。

これらの点で見ると、振り返りの場のタイミングとか、その記述の分量のバランスがとれているか、そして取り組み姿勢の４段階チェックは必要であるかなども検討しました。その結果、私は、教育出版、光村図書出版がよりよいと考えました。

道徳科のポイントとなるいじめ、あるいは生命尊重などを非常に重点化して、重要に扱ってくれている出版社としては、東京書籍、教育出版、日本文教出版が上げられました。

このほか、読み物、資料の読みやすさ、デジタルコンテンツの効果なども総合的に判断し、先ほど申し述べたことと一体に考えますと、教育出版や日本文教出版が適していると判断いたしました。

以上です。

○八並委員　前回、道徳の教科書を採択するときもそうでありましたが、教員の発問によって生徒が自由に考えることが大切であり、生徒たちのより多様な考え方を引き出すためには、各項目のテーマなどはかなり控えめであるほうがよいと思っております。そういう点から考えますと、私は、学研教育みらい、日本文教出版、廣済堂あかつきなどが、かなり控えめになっているのではないかと思われました。ただ、いろいろなところで各章末に発問があったりするので、本当に物語を読んでそれを考えるということにはいかないと思いますが、より生徒たちの発想、考えを自由にめぐらせることができる編集になっているかということでは、この３社がよろしいのではないかと思いました。

ただ、日本文教出版と廣済堂あかつきに関しては、「道徳ノート」がついておりますが、ノートに関しては特になくても、現在先生方が使っていらっしゃるような授業の仕方、ワークシートなどでも十分対応できるのではないか。そのようなことを考えますと、私は学研教育みらいがよいのではないかと考えます。

○井上委員　教科としては成績を評価するわけではないので、価値観の押しつけにならないような配慮や工夫が必要だと思います。毎回初めにテーマを決めて臨む授業展開が、望ましいとは言えないのではないかと考えています。

そのあたりを加味して、日本文教出版は、比較的やわらかな印象の写真や絵が効果的に使われており、「プラットフォーム」では、怒りの感情と上手につき合うという、思春期だけでなく、社会に出た後にも必要となるような題材を扱っていて興味深いです。また「道徳ノート」は書き込みやすく、使い勝手がよいのではないかと思います。視野を広げる工夫があり、ワンパターンにならない多彩な展開が期待できる教科書ではないかと思いました。

また、学研教育みらいは、題名の部分に、文字で内容の分野名が書かれていない点がよく、マークで知らせるのみの仕様です。本文下にメモ欄があり、読みながら感じたことをすぐメモできるかと思います。また、読み物中心ではなく、生徒に身近な題材を取り上げており、非常に扱いやすく、身構えずに臨めるのではないかという点が最大の魅力だと思います。

廣済堂あかつきは、シンプルで余分なものがない印象で、文字は多めですが、丁寧な発問ができていると思います。ただ、「道徳ノート」に関して、前半は読み物で、後半は罫線が書いてあるだけの仕様なので、覚書のメモ程度として活用することになりそうです。

私からは以上です。

○森山委員　私のほうからは２つの教科書を選びたいと思います。

１つは、東京書籍の「新訂　新しい道徳」の教科書です。これは生徒が興味を持ちそうな読み物に加えて、漫画とか絵本を取り入れたり、「アクション」という項目で役割演技を扱ったりするなどの工夫が見られます。具体的には体験的な学習として、各学年それぞれに「アクション」というところの掲載があります。ただ紙で字を読むというだけではなくて、それを実際に体験するという教科書の工夫が見られます。

また、教育出版の「中学道徳　とびだそう未来へ」という教科書ですが、これについては現代的な話題あるいは伝統的な読み物をふんだんに取り入れて、さまざまなテーマを扱って生徒の興味・関心を引くという工夫をしていると思います。

東京書籍の教科書も、教育出版の教科書も、いじめや生命尊重について集中的に考えさせるというところに重点を置いた構成になっています。

道徳科で学びを深めるために、より学び方や考え方を習得できるように工夫されているという点では、教育出版の教科書が非常に適しているかと思います。

そういう意味では、東京書籍と教育出版が中学校の道徳の教科書として最適ではないかと思います。

以上です。

○教育長　委員の皆様からそれぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

それでは投票用紙を配付してください。

（投票）

○教育総務課長　発表いたします。

東京書籍１、教育出版１、学研教育みらい３、以上です。

○教育長　ただいまの発表のとおり、投票の結果、学研教育みらいが過半数の３票以上を獲得いたしましたので、2021 年度使用教科用図書、中学校「道徳」は、学研教育みらいに決定いたします。

以上で全教科についての採択が終わりましたので、ここでもう一度全教科の結果につい

て申し上げたいと思います。

国語、光村図書出版、書写、教育出版、社会（地理的分野）、帝国書院、社会（歴史的分野）、帝国書院、社会（公民的分野）、教育出版、地図、帝国書院、数学、東京書籍、理科、大日本図書、音楽（一般）、教育芸術社、音楽（器楽合奏）、教育芸術社、美術、光村図書出版、保健体育、学研教育みらい、技術・家庭（技術分野）、東京書籍、技術・家庭（家庭分野）、開隆堂出版、英語、光村図書出版、道徳、学研教育みらい、以上でございます。

以上で第 19 号議案の審議を終了いたします。

休憩いたします。

午後２時 23 分休憩

午後２時 24 分再開

○教育長　再開いたします。

議案第20号を審議いたします。本件については学校教育部長からご説明を申し上げます。

○学校教育部長　議案第 20 号「2021 年度使用教科用図書（小学校）の採択について」、ご説明いたします。

本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条及び第 14 条並びに同法施行令第 14 条及び第 15 条の規定により、2021 年度使用教科用図書を採択するものでございます。

なお、2021 年度に使用する小学校教科用図書の採択につきましては、2019 年度検定において新たな小学校教科用図書の申請がなかったため、前年に引き続き、別表の図書を採択するものでございます。

１枚おめくりください。2021 年度使用町田市立小学校教科用図書一覧でございます。

説明は以上となります。

○教育長　説明は終わりました。

これより質疑に入ります。ただいまの説明に関しまして、何かご質問などおありになりましたらお願いをいたします。――よろしいでしょうか。

以上で質疑を終了いたします。

お諮りします。議案第20号は原案のとおり可決することにご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長　ご異議なしと認め、原案のとおり決することにいたします。

次に、議案第21号を審議いたします。本件については学校教育部長からご説明を申し上げます。

○学校教育部長　議案第21号「2021年度使用教科用図書（特別支援学級）の採択について」、ご説明いたします。

本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条及び第 14 条並びに同法施行令第 14 条及び第 15 条、並びに学校教育法附則９条の規定、及び町田市立小・中学校教科用図書採択要綱に基づき、2021 年度使用教科用図書を採択するものでございます。

１枚おめくりください。１ページから 21 ページまでが 2021 年度小学校特別支援学級使用図書一覧でございます。そして 22 ページから 40 ページまでが 2021 年度中学校特別支援学級使用図書一覧でございます。

説明は以上となります。

○教育長　説明は終わりました。

これより質疑に入ります。ただいまの説明に関しまして、何かご質問等おありになりましたらお願いいたします。――よろしいですか。

以上で質疑を終了いたします。

お諮りします。議案第21号は原案のとおり可決することにご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長　ご異議なしと認め、原案のとおり決することにいたします。

以上で町田市教育委員会第１回臨時会を閉会いたします。

午後２時 29 分閉会